

平成 27 年度 現代社会学部

自己点検評価報告書

－教育研究活動の実績－

1. 概要
2. 概況
3. 教養教育
4. 語学教育
5. 専門教育
6. 留学生教育
7. 教育改善・FD 活動
8. 学生生活・生活支援
9. キャリア支援
10. 国際交流
11. 地域交流・地域貢献
12. 入試対策
13. ホームページ、広報活動
14. 研究活動
15. 文部科学省平成 27 年度認定事業「地(知)の拠点大学」
16. 後援会・保護者対応

平成 28 年 3 月

富山国際大学 現代社会学部

1. 概要

1. 実績・現状

(1) 本学の理念、学部教育目標の達成

富山国際大学の基本理念は「共存・共生の精神と知性を磨く教育を基本に、時代の潮流に対応できる、健全にして個性豊かな人材を育成して、国際社会および地域社会の発展に寄与する」である。

現代社会学部の教育目標は、「これからの 21 世紀を支える、国際的センスを持った、地域に精通し、かつ 常に時代の潮流に対応できる実践的な人材を育成する」ことである。

アドミッションポリシーは、現代社会が抱えている 問題を自ら発見・解決し、未来の創造に積極的に参加しようとする以下のような人である。

- ①人と環境に配慮した観光政策・観光産業による地域社会の持続的発展に、高い関心を持つ人。
- ②環境に対する専門的知識と行動力を養い、地域や企業で豊かな環境を創造することに、高い関心を持つ人。
- ③地域社会や組織の持続的発展のために、情報通信技術を活用し企業等の経営を創造・革新すること に、高い関心を持つ人。

本学の基本理念、学部教育目標等については明確に定められ、「大学案内」、「学生便覧」などの印刷物や本学ホームページに掲載して、学内外へ情報発信し周知している。

(2) 分野別特徴

a. 教養教育

本学の教育理念・目標に沿い、共存・共生のアプローチ科目（社会生活基礎科目・社会理解基礎科目）、時代の潮流へのアプローチ科目（情報化対応科目・国際化対応科目）、キャリア・実務科目、教養演習科目を開講している。教養ゼミ担当教員によるアカデミックアドバイザー会議を月 1 回程度開催し、ゼミ生とゼミ運営について情報交換を行っている。

b. 語学教育

国際人としての能力の向上を目指すため、「基礎英語」の必修化と東アジア地域での国際活動に必要な「中国語」「韓国語」「ロシア語」と「実践英語」のいずれかを選択必修としている。海外協定校への交換留学（長期留学）、語学研修（短期留学）を強く奨励している。

c. 専門教育

「基礎科目」「地域づくり科目」「国際交流科目」からなる学部共通科目と、観光・環境デザイン・経営情報の専攻ごとの専攻科目を学び、それぞれの専門分野で活躍できる能力を身につけさせる。本学部の特色ある教育である専攻ごとの「実習」を必修科目としている。地域の施設・企業などの現場や実習場所に出向き、実践活動を行いながら、専攻教育の理解を深めている。

d. 留学生教育

平成 27 年度は学部留学生、交換留学生、外国人研究生、合計 61 名が在学している。日本語教育はプレースメントテストの成績によりクラス分けしている。学部留学生は全員卒業までに日本語能力検定試験で N 1 合格を目指している。授業外では、日本の地域社会と触れあう体験活動を

約 10 回実施した。

e.教育改善・FD活動

学部学務委員会、学部FD委員会が中心となり教育改善・FD活動を推進した。FDワークショップを2回、全学FD研修会を1回開催した。ほぼ全教員が参加し、自らの授業改善に取り組むヒントを得た。今後の課題は、カリキュラム体系の見直しやFD活動の活発化である。

f.学生活動・生活支援

学生主体の大学づくりに向けた取り組みを推進した。新入生オリエンテーション、スポーツ文化交流会、大学祭等の改革・改善に向け、学友会・大学祭実行委員会を中心とした学生と学務委員を中心とした教職員が話し合いを重ねた。

g.キャリア支援

キャリア科目として、1年生必修の「キャリア・デザイン講座」、3年生必修の「キャリア支援講座」を開講している。教養演習（1年、2年）では、SPI演習を導入した。インターンシップはこれまでの夏季に加え、2月から3月にかけても実施した。また、海外インターンシップ先の開拓に注力した。公務員・金融・国際関係企業希望者に対する対策プロジェクトを立ち上げた。公務員希望者に対しては、新しく講座を開設する準備を進め、平成26年度より開講する。

h.国際交流

留学生への学習・生活指導、海外協定校との連携による海外研修・留学プログラムを、国際交流センター委員が担当職員と協力し実施している。その実績・現状では、昨年に比べ全体で45人が海外体験をした。さらなる勉学意欲の高い学部留学生の確保が課題である。

i.地域交流・地域貢献

主に本学園サテライト・オフィス「地域交流センター」で実施している、エクステンション・カレッジ及び同プレビュー講座により、地域貢献を行っている。今後の課題としては集客力の向上と新たなプログラムの開発があげられる。

j.入試対策

平成28年度入試の結果、編入学2名を含めて総計96名の入学者が確定した。入試種別、高校別入学者数を分析し、来年度入試に向けての対策を策定した。大学での実績などの広報活動をはじめ、取り組める課題から早急に実施している。

k.HP・広報活動

大学ホームページによる広報活動の実績（アクセス件数等）、大学に関連する新聞記事等の掲載実績をまとめた。学部の活動状況を広く社会に広報するために、大学の特徴ある授業、大学のイベント、学生の活動、教員の社会活動や研究などに関して積極的に報道機関に取材依頼している。

1.研究活動

教員による学会発表、論文発表を集計した。紀要論文は多くの教員が執筆した。締切が厳守されなかった。紀要論文提出時期の見直しと周知徹底が課題である。競争的資金等による採択研究の実績を集計した。科研費採択数の増加が望まれる。

m.大学・学部の戦略・運営に関する検討

学長室スタッフ会議の業務内容と検討事項が記述。課題は大学のデータベースを構築してその活用法について方針を決め推進することである。

n.後援会・保護者対応

後援会理事会・後援会総会、保護者懇談会（2回）を開催した。後援会総会や保護者懇談会に出席される保護者の方を増やすことが課題である。

o. 出講プログラム、外部委員会・審議会、地域団体等との連携活動

出講プログラム、外部委員会・審議会、地域団体等との連携活動状況をまとめた。授業および学内業務優先を原則として、適切に対応することが大切である。

2. 課題

（1）入学定員の確保

入学者数が入学定員を確保できていない現実に危機感を持ち、その危機感を共有することが必要である。定員確保するためには入試業務担当者だけではなく、すべての部署で教職員が本学部の質的向上に、より一層努力する。平成28年度、最終年を迎える「富山国際大学アクションプラン 2014-2016」を確実に実行する。

（2）魅力ある授業の実現

入学時学力および勉学意欲に大きな差がある学生に対して、等しく理解できる授業をすることは大変困難であるが、授業改善を継続し魅力的な授業の実現に努力する。FD活動などを通して効果的な教育方法の開発、共有を進める。

（3）高い進路（就職）実績の達成

平成27年度卒業生の就職率は100%であった。今後就職希望者全員の就職を第一に達成する。次に第一志望の進路に進める卒業生を増加させる。公務員講座開設など、そのための取り組みをさらに推し進めていく。

（4）現代社会学部将来計画検討会議の設置

（1）～（3）の課題を踏まえ、平成27年11月教授会で、現代社会学部8年間の総括とこれからの学部のあり方について検討するための会議の設置が決定した。会議のメンバー、スケジュールは次の通りである。会議メンバーは、学部長と各専攻長、学務部長とし、平成28年1月までに3回程度の検討を行い、2月教授会に提案予定として検討が進められたが、大学を取り巻く環境の変化とも相応させなければならないことから、十分な結論が得られなかったが、副専攻に関する内容については、平成29年度入学生から適応できるように、全学的に平成28年度中に具体化することとなった。更なる改革を進めるには、今年度の検討結果を踏まえ、新たな検討会を立ち上げることが必要である。

2. 概況

1. 実績・現状

(1) 学生の状況

1) 在学者数(平成 28 年 3 月 31 日現在)

学年	総数	男女別				県内外別							
		男性		女性		富山県内				県外・海外			
		比率		比率		男性	女性	計	比率	男性	女性	計	比率
1年生	115	82	71.3%	33	28.7%	74	30	104	90.4%	8	3	11	9.6%
2年生	106	76	71.7%	30	28.3%	63	20	83	78.3%	13	10	23	21.7%
3年生	87	58	66.7%	29	33.3%	38	17	55	63.2%	20	12	32	36.8%
4年生	102	67	65.7%	35	34.3%	53	28	81	79.4%	14	7	21	20.6%
合計	410	283	69.0%	127	31.0%	228	95	323	78.8%	55	32	87	21.2%

※休学者数を含む

2) 県外学生の出身地(平成 27 年度)

府県	1年	2年	3年	4年	計	府県	1年	2年	3年	4年	計
秋田		2	2	2	6	愛知	1				1
福島			1	1	2	京都	2		1		3
千葉		1			1	兵庫		1	2		3
新潟		2		1	3	愛媛			1	2	3
石川			4		4	佐賀			1	1	2
福井		1	1		2	長崎	1	1	1		3
山梨	1				1	宮崎			1		1
長野		3		1	4	鹿児島	1	1		1	3
岐阜	1		1	1	3	計	7	12	16	10	45

3) 海外学生の出身地(平成 27 年度)

国名	1年	2年	3年	4年	計
中国	3	11	14	11	39
韓国	1				1
ネパール			2		2
計	4	11	16	11	42

(2) 教職員

1) 教員組織(平成 27 年度)

区 分	人 数	内 訳
現代社会学部専任教員	20名	教授12 准教授6 講師2
現代社会学部客員教授	3名	
学园内兼担・兼任講師	3名	子ども育成学部3
学園外兼任講師	17名	
計	43名	

2) 事務職員(平成 27 年度、東黒牧キャンパス)

区 分	人 数	内 訳
専任事務職員	19名	部長1 参事1 課長3 係長4 主査6 主事3 運転手1
契約職員	10名	職員10
計	29名	

3. 教養教育

1. 実績・現状

(1) 教養授業

- 1) 教養科目として、「社会生活基礎科目」5科目、「社会理解基礎科目」6科目、「情報化対応科目」3科目、「外国語科目」14科目、「日本語科目」10科目、「キャリア・実務科目」8科目、「教養演習科目」4科目を開講。
- 2) 授業評価アンケート結果における総合評価は、5点満点中4点代前半の科目が多い。
- 3) 学外の業者と提携して、1年生対象のキャリア科目の中で「SPI・Webテスト」を2015年11月に実施。当該テストの結果は、学生本人にフィードバックされるとともに、ゼミ担当教員に伝えられた。

(2) 教養ゼミ

- 1) 合同教養演習1として、前期に「ノートパソコン利用法」、「eポートフォリオ・図書館利用法」、「健康教育・大学生活のためのツールブック利用法」、後期に「北日本新聞連携講座」を実施。
- 2) 2年のゼミにおいて、30分程度の時間を充てて15回にわたりSPIの問題演習を実施。同SPIについては、合同教養演習において就職試験プレテストとして年4回(6月2日、7月7日、11月10日、1月12日)、2年生全員による模擬試験を行った。
- 3) 大学祭時に、教養演習1と教養演習2の教育内容を紹介する展示室を設けた。

(3) 教育指導

- 1) 1年、2年ゼミ担当者において、アカデミック・アドバイザー連絡会議を月1回程度実施。ゼミ生とゼミ運営の方法についての情報交換を定期的に行う。
- 2) ゼミ担当教員はゼミ生の授業への出欠状況を把握した上で、問題のありそうな学生については適宜アドバイスをしている。
- 3) 保護者との連携として、ゼミ担当教員による成績表コメントの送付、年2回の個別保護者懇談会を実施。
なお、本年度における退学者は1年生は2名(退学率1.7%)、2年生は3名(退学率2.8%)であった。(平成28年3月31日現在)

2. 課題

(1) 教養授業

- 1) 授業評価アンケートの結果を踏まえた授業改善。
- 2) 授業科目として、国際関係に関する授業の充実。
- 3) ディプロマ・ポリシーや他の授業科目との関連を意識した授業内容の実践。
- 4) 2年生に対するキャリア関連の授業や講座の実施方法の検討。

(2) 教養ゼミ

- 1) 4年次の卒論作成の基礎として、論文作成能力及びプレゼンテーション能力といったアカデミック・スキルの涵養。
- 2) 問題等を抱えた学生や奨学金対象者で GPA の低い学生に対して、アカデミック・アドバイザー連絡協議会だけでなく、授業担当者と連携して対応していくか検討。
- 3) e ポートフォリオと「ツールブック」の活用促進。
- 4) ゼミ運営方法に関して、FD 研修会等を利用した教員同士の更なる情報交換。
- 5) 2年ゼミにおける SPI 問題演習の実施方法についての再検討。

(3) 教育指導

- 1) 2年生に対する制度的な就職指導のあり方についての検討。
- 2) 長期留学を促す学生への働きかけや、留学前と留学中の学生に対する指導方法についての検討。

4. 語学教育

1. 実績・現状

(1) 英語

- 1) 平成27年度の基礎英語 I または基礎英語 II 1年(前・後)・必修科目 は6クラスで行い、専任教員1名(パブリー講師)と非常勤講師4名が担当した。英語で行うゼミ(教養演習 I I 英語クラス)を 専任教員(パブリー講師)が担当した。
実践英語 I 1年(前)(後)・選択必修科目、または実践英語 II 2年(前)(後)・選択必修科目 2クラスで行い、非常勤講師2名が担当した。観光英語3年(前)・選択科目 専任教員(パブリー講師)が担当した。 ビジネス英語と Oral Communication は3年(前)・選択科目は非常勤講師2名が担当した。
- 2) プレースメントテストをし、基礎英語クラス分けを行った。能力(テストの点数)によって現代社会学部で能力別のクラスを作り、原則として前期と後期クラスは変わらないようにした。その結果として、学生が自分の英語力のレベルにふさわしい授業内容・英語練習などを受けた。
- 3) 学生が英語を母語としている人と触れ合い、英語のみで自由にいろんなトピックについての話ができるイングリッシュ・カフェ(English Café)という施設を開催した。Caféの利用者がコーヒーや紅茶などを楽しみながら英会話をし、学生の中で人気になり、全体的に現代社会学部の英語・外国語学習を促進するという効果があった。日本人の学生と共に留学生や交換留学生が English Café を訪れ、学部生と留学生の国際交流場所となった。期後期合わせて、約350名が累計約360時間を English Café で過ごし、英語力向上に励んだ。前期の平均利用時間が約60分、後期の平均利用時間が約70分であった。

(2) 中国語

1) 中国語

①履修者数および成績評価結果

項目	人数(人)	割合(%)	備考
履修学生数	56	100%	
期末試験受験者数	54	96%	
合格者数	54	96%	(内3名に課題を課した)
不合格者数	2	4%	(再履修が必要)

②成績評価基準

- ・シラバスに記述した方針(出席点20%、受講態度20%、課題30%、期末テスト30%)で成績評価(素点)を実施。

③授業の成果と問題

- ・受講生の大多数が中国語の授業は楽しかったという声があった。出席率が良く、教員と学生とのコミュニケーションもよく取れる状態だった。授業アンケート分析によると履修者の80%以上は、中国語授業を受けて満足したという答えがあった。多数の履修者は中国語と中国文化に興味を持つようになったということが分かった。
- ・言葉を勉強と同時にその背景にある中国文化の導入もあったので、いっそう中国語に興味を持たせることができたばかりでなく、中国文化、事情にたいしてもある程度の

理解もあった。

- ・授業は発音・声調、朗読、短文のつくり、簡単な会話に重点を置き、一人ひとりにきめ細かな指導を行った。また履修者同士の参加型授業、留学生チューターの活動なども導入した。授業中学生に作業時間を与えるのを心がけた。

問題

- ・クラスには人数が多いうえに、野球部に所属している男子学生が数多かったので、単位だけがほしい学生の勉強意欲が低いことにより、授業中私語をしたり、携帯をいじったりする現象があった。注意力が引っ張られたことがしばしばあった。
- ・学習意欲が高い学生に授業中では、十分な指導が与えられなくなる時もあったような気がする。

2) 観光中国語

①履修者数および成績評価結果

項目	人数（人）	割合（％）	備考
履修学生数	8	100％	
期末試験受験者数	6	75％	2名欠席（4年生）
合格者数	6	100％	（受験者全員合格）
不合格者数	0	0％	

②成績評価基準

- ・シラバスに記述した方針（課題 30%、期末テスト 30%、授業態度 20%、出席 20%）などで総合的に評価する。

③到達目標

- 1：中国語の基礎文法を正しく応用ができる。
- 2：中国人と日常的な会話ができる。
- 3：辞書を調べながら一般的な中国語の資料が読め、簡単な通訳もできるようにと目指すこと。

④授業の成果と問題

- ・授業を通して、到達目標の①と③をクリアできたが、②に関しては、もう少し距離があるようだが、また努力が必要である。
- ・言葉の勉強と同時に中国文化、中国事情も触れられて、大変有意義な授業だという評価があり、受講者の勉強意欲を引き出すことができた。
- ・少人数の授業なので、一人ひとりにきめ細かな指導が行われた。また履修者同士の参加型授業、留学生との交流なども導入した。授業中学生に作業時間を与えるのを心がけた。

問題

- ・教室での勉強ばかりをしたが、今後実践練習、観光地現場での勉強と練習をかねての会話を取り組みたいと思う。

（3）韓国語

韓国語は平成 24 年度入学生から選択必修科目となり、同時に週 2 回の開講となった。平成 27 年度「韓国語 I」（履修登録者 34 名。単位取得者 31 名）では、ハングルと発音の習得、続いて会

話練習を織り込みながら初級文法を学習した。「韓国語Ⅱ」(履修登録者 31 名。単位取得者 29 名)では、「韓国語Ⅰ」で学習した内容を復習した後、過去形や仮定形、推量など基礎的文法事項を学習した。

シラバスで「韓国語Ⅰ」の到達目標に掲げた、ハングルの仕組みを覚え、読み書きでき、簡単な自己紹介ができるレベルは受講生の 8 割は到達できたとみている。「韓国語Ⅱ」の到達目標に掲げた基本的な文法事項をマスターし、簡単な会話ができるレベルに到達した学生は、数名に留まった。

中級以上の韓国語授業が開講されていないので、本格的な韓国語学習は協定校への留学を勧めている。平成 27 年度は韓国語履修者中、「異文化研修(韓国)」に 5 名参加した。研修中、聖公会大学に留学中の 2 名の学生との交流を通して、長期の韓国留学に意欲をみせる学生も現れた。

(4) ロシア語

1) 実績と現状

項目	人数(人)	備考
ロシア語Ⅰ(前期)	13	
ロシア語Ⅱ(後期)	11	
合格者数	24	
不合格者数	なし	

- ① ロシア語を初めて学ぶ学生を対象に、やさしく、楽しい授業を展開し、基本的なことを繰り返すことによって、ロシア語の文字、発音、基本的な会話表現、文法を学び、ロシア社会の初歩的な知識も学ぶことができた。
- ② ロシア語の基礎知識を得て、挨拶などの実用的な表現を覚えた。
- ③ ロシア社会の初歩的な知識も学び、ロシア文化について学ぶことができた。
- ④ 学生(6名)が第9 富山県ロシア語スピーチコンテストに参加し、2 位、3 位、特別賞を収得した。

2. 課題

(1) 英語

学部英語教育、留学プログラムと TOEIC, TOEFL などの英語検定に関連性を考える。イングリッシュ・カフェ(English Café)利用者の人数を増やす。

(2) 中国語

1) 中国語

- ・興味を持ってもらうだけではなくクラス全体の勉強意欲、主体的な学びを引き出すことができるような授業の方法を工夫しなければならないこと。(例えばまず楽しい、生き生きとした授業雰囲気を作ったり、学生の能動性が目いっぱい生かせたりすることなどを工夫する。)
- ・中国語検定試験向けの練習指導を強化しなければならないこと。一人でも多くの受験者が現れるように努力したい。
- ・チューター制度をもっと有効的に活用し、中国語の履修者との交流や会話練習などを授業の一環としてしっかりと実施したい。

2) 観光中国語

- ・興味を持ってもらうだけではなく、学生が主体的に活躍できる授業の形態になるための工夫をしなければならないこと。
- ・チューター制度をもっと有効的に活用し、履修者との交流や会話練習などを授業の一環としてしっかりと実施したい。

(3) 韓国語

ほとんどの受講生が初めて韓国語を学習するので、スタートラインは同じなのだが、前期終了時点では、学生ごとに顕著な理解度の差ができてしまう。これを解消すべく、授業方法の工夫を重ねている。平成 26 年度より自宅学習を促すため、一週間に 1 回程度復習用の学習プリントを配布、翌週の授業で回収し点検している。

アクティブ・ラーニング（グループワーク）の導入を試みているが、まだ際立つ成果は出ていない。これまでグループのメンバーを定期的に入れ替える、グループ内で話し合いを促すなどしてきた。平成 28 年度はグループ内でのコミュニケーションを活発化させる方策を種々検討し試したい。

(4) ロシア語

上達した学生をロシアへ留学させ、ロシア語検定試験を受けるように対策を考える。また全国大会への出場を目指すよう指導に心掛ける。

5. 専門教育

5-1 観光専攻

1. 実績・現状

(1) 観光専攻の専攻科目（講義）

平成 27 年度の観光専攻の 1, 2, 3, 4 年対象の講義（観光専攻専攻科目）は、27 科目開講され、専任教員 6 名と非常勤講師 3 名で担当した。

専攻科目の専任教員担当科目では、授業手法として AL 技法を活用したグループワーク等を使用しながら双方向の授業を行った。授業アンケート等でも、総合評価に関する項目では、4 点台（5 点満点）で評価は高い。

(2) 観光実習

1) 概要

<目的>

2015 年度の観光実習は、旅行会社と連携し長期インターンシップ型の観光実習を行った。その目的は、①旅行商品の開発を通じて旅行代理店における観光マーケティングのあり方について学ぶこと、②また、サービス・マーケティングにおける製品戦略にとどまらず、価格戦略、チャネル戦略、プロモーション戦略についてもその実態を体験することであった。

<到達目標>

次の 4 点を達成目標とした。

- ①旅行商品を開発するプロセスを学ぶ。
- ②長期インターンシップ型実習の中で、サービス・マーケティングの基本を習得する。
- ③プレゼンテーション力の向上をはかる（報告書、パワーポイント）。
- ④全体のグループ作業を通してコミュニケーション力、協働力を養う。

<実習内容>

上記目的を達成するために次のことを実施した。

- ①班編成ならびに実習の目的等の説明
- ②班毎に旅行商品作成地域（新川地区、富山地区、高岡・氷見地区、五箇山地区）の文献調査
- ③旅行会社の実習担当者による講義
- ④現地調査（新川地区、富山地区、高岡・氷見地区、五箇山地区）
- ⑤現地調査データの整理
- ⑦旅行商品開発のための講義（価格設定、企画のコンセプト、販売チャネルの検討、等）
- ⑧グループ作業
- ⑨企画商品の発表

<成果>

- ①2015 年度の観光実習は、旅行会社の協力を得て長期インターンシップ型の実習として実施した。長期インターンシップ型の実習の場合、大学の教員と協力企業の関係（どこまで大学教員がかかわるべきなのか、あるいは実習全体のスケジュールの中でどこまで大学が担い、どこまでを協力企業に依頼するのか）についてはまだ明確な基準が

ないので戸惑う部分も多かったが、はじめての試みとしては成果があったと思われる。
授業アンケートを見ると実践的な知識等に関して評価するアンケートもあった。

- ②観光実習に参加した学生は、旅行商品開発の最前線の知識を得、また苦労しながら自分たちのオリジナルの旅行商品を完成させたことは、観光実習としての成果の一つである

(3) 専門演習Ⅰ、Ⅱ

表 5-1：平成 27 年度卒業論文タイトル

番号	卒業論文タイトルーサブタイトルー
1	観光地への交通誘導の円滑化に向けた課題ー飛騨高山を事例としてー
2	観光の視点からみた公園施設の在り方ー南砺市桜ヶ池公園を事例としてー
3	外国人に対する観光案内の課題と解決策ー立山黒部アルペンルートを中心としてー
4	富山市街地における観光案内サイン・地図の整備とその課題
5	観光振興に向けた「食」のアピールー「富山湾鮎」の活かし方とその課題ー
6	利用動向からみた富山空港の存立条件ー新幹線と航空路線の両立を目指してー
7	観光案内施設の役割と課題ー黒部市地域観光ギャラリーを例としてー
8	宿泊施設における食の在り方についてー富山のホテルを中心にー
9	富山県八尾町の地域活性化の現状と今後の方向性
10	北陸新幹線開業による長野県への影響ー～長野市を中心にー
11	観光資源としての音楽ー～音楽ツアーを事例にしてー
12	富山県舟橋村における人口増の要因に関する研究
13	富山を訪れる中国人観光客の購買動向に関する一考察
14	富山県の旅館の満足度調査と宿泊客誘致戦略ー～おがわ温泉と庄川温泉郷の比較ー
15	苦情処理を通じた顧客満足度の向上についてー～富山市内のバス会社を事例としてー
16	金沢を訪れる外国人観光客の現状と課題
17	カフェを中心とした地域の活性化についてー～呉羽のカフェを中心にー
18	ホスピタリティ教育と人材育成ー～富山県のホテルを事例としてー
19	地域の祭の現状と今後のあり方に関する考察ー～宇奈月町柵屋を事例としてー
20	地域の様々な主体が連携した地域観光施設の整備・運営のあり方に関する研究
21	富山県の観光施設の魅力に関する研究
22	富山県の観光における水の活用の在り方に関する考察 ー呉東地域(黒部市生地・滑川市・入善町)を事例としてー
23	富山県における日本酒を活用した観光事業の在り方 ー～富山県岩瀬町、岐阜県飛騨古川町、新潟県越後湯沢市を事例としてー
24	日常行為の日中比較ー観光業界に異文化理解を浸透させるにはー

専門演習Ⅰは3名の教員、専門演習Ⅱは4名の教員で担当した。教員別の学生数は次の通りである。

専門演習Ⅰ：高橋（光）教授5名、佐藤（悦）教授6名、助重准教授8名。

専門演習Ⅱ：高橋（光）教授 5 名、佐藤（悦）教授 5 名、斎藤准教授 7 名、助重准教授 8 名。

なお、後期休職した教員担当の専門演習Ⅱの学生に対しては、学生の希望に応じてゼミを決め、卒論指導をおこなった。

4 年次 24 名は卒業論文を書き上げ、2 月 8 日に卒業論文発表会を行った。

2. 課題

①観光専攻の専攻科目

観光専攻の専攻科目の授業アンケート結果は、比較的高い評価点であるが、講義内容、教育手法に関しては、引き続き専攻内でも検討する必要がある。また、平成 28 年度からは、新任の教員が 2 人加わるので、教員の担当科目を含めて再検討をする予定である。

②観光実習

長期インターンシップ型実習における大学教員と協力企業の関係については、以前から長期インターンシップ型実習を行っている経営情報専攻との意見交換を行いたい。この形式の実習は、今後も重要と考えられるので富山国際大学型の新しい実習のあり方考える時期にあると思われる。

③専門演習、卒業論文指導

レベルの高い卒業論文を書かせるために、3 年次からの指導が必要である。特に文献講読により知識を深め、またフィールドワークを行い、4 年次の卒業研究につなげることが重要である。卒論指導においてもある程度教員間で最低限の作法（卒論の組み立て、引用箇所の明示等）を共有する必要がある。

5. 専門教育

5-2 環境デザイン専攻

1. 実績と現状

(1) 新たな取組み

6名の教員それぞれが持つ専門性を学生教育に生かし、特色ある教育を展開して学生の修学意欲を高めると共に教員の研究を促進することを目標に、27年度は以下の新しい取り組みを行った。

- ① タイ北部ナーン県の無電化農村において、ボランティア活動としての文化センター建設をとおして3週間の現地体験を行わせる実習を平成26年度からの継続として実施し活動の現地定着を図った。
- ② 専攻での海外異文化研修としてデンマークの再生可能エネルギー利用と教育・福祉に関する視察ツアーを実施した。5名の学生が参加し、デンマークの環境政策や技術開発、社会利用などについて日本との違いを実感した。
- ③ エコ検定受験者と合格者増加を目指して、検定に向けた特別対策講座を実施した。その結果22名が受験し、5名の合格者を得た。

(2) 教育指導

①ゼミ教員による学生指導

- ・専門の資格取得を目指した教育指導：エコ検定合格・・・5名
- ・地域企業や地域団体との連携活動

黒部市：でんき宇奈月プロジェクトの視察と宇奈月での調査(1名)

富山市：生活協同組合、桐谷地区、富山市植物園との連携調査(3名)

団体：富山県消費者協会との消費者問題に関する意見交換会(8名)

大学周辺：里山集落での課題発見活動(15名)

②卒業研究及び発表会

- ・専攻ゼミ生による中間発表会の実施(7月30日実施)
- ・成果発表会(平成27年2月9日実施)テーマ36件、要旨集作成(1件A4,1ページ)

③専門分野のボランティア活動への学生参加状況

- ・とやま環境フェアでのボランティア活動への参加(参加学生延人数10名)
- ・大学周辺森林整備活動への参加(環境専攻の学生延15名)
- ・世界遺産と国際砂防フォーラムでのユースプログラムへの参加(留学生・環境デザイン専攻学生合計5名)

④支援を要する学生への対応

- ・卒業が遅れている2名の学生への対応(1名は9月に卒業、他の1名は翌3月に卒業)

⑤グローバル化対応

- ・学生のボランティアの外部講師(タイ語専門家)と留学生を講師とした、現地言語(タイ語)の修得

(3) 教員研究活動の推進

①外部の競争的資金採択状況(提供団体と件数)

- ・国交省・北陸地域づくり協会(1件)
- ・富山県ひとづくり財団(5号助成1件)
- ・第一銀行奨学財団助成(1件)
- ・環日本海推進機構(1件)

- ・ 科学研究補助金(研究代表 2 件、分担研究者 5 件)

②学会発表活動状況

- ・ 研究論文掲載件数(査読有)0 件 学会研究発表 6 件

③教員の専門分野による地域貢献活動状況

- ・ 高校出講件数(上坂 1 件、尾畑 2 件、才田 1 件、大谷 3 件)
- ・ 地域・市民向け講演(上坂 17 件、尾畑 4 件、高橋 1 件、才田 1 件、大谷 10 件)

④専攻教員・学生が協力した地域研究の実施

- ・ 富山県消費者グループのアンケート調査及び分析補助(6 月～12 月)
- ・ イタイタイ病を考える県民フォーラムで専攻学生が学習成果を発表(2 月 13 日)

(4) 将来構想の検討

環境デザイン専攻の特色を明確化し魅力的な専攻とするための「特徴づけ」を、学部将来構想の検討に連動して検討した。その結果、以下の点に注目した方針を抽出した。

- ①専攻の色づけを、地域活性化においては経済活動（ビジネス）が欠かせない事に重きを置き、「環境ビジネスで地域を豊かにする専門家育成」に集中する。
- ②ASEAN 諸国を中心とした海外連携を強化し、国際ビジネスも可能な人材育成を目指す
- ③環境の立場から「地域を見る目」を養い、地域の持続的発展を支える人材を育成する方針は揺るがないが、政策指向ではなく実践指向の教育に注力する。
- ④以上を鑑みて、人材育成のキャッチフレーズを以下の二つに絞り込む
 - (ア) 資源感覚と国際性を身に付けた「環境ビジネスマネージャー」
 - (イ) 持続性ある地域づくりを仕掛ける「地域プロデューサー」

2. 課題

環境デザイン専攻希望学生（学年で約 40 名）は学力のバラつきが大きく、専門ゼミにおける指導方法が課題である。特にスポーツ活動を行っている学生に修学上の問題のある学生が多い。学問への興味や意欲を高めさせ、社会科学系における環境学の意義を理解させることが教育上の重要課題と考える。

(1) 新カリキュラムの検討

- － 地域から求められる人材教育の模索とそれに向けた教育内容構築に向けて、授業科目間の再調整と新設科目の設置などを踏まえ平成 28 年度も継続的に検討

(2) 教育指導

- － 学力差を超えて、学生が自主的、意欲的に取り組めるアクティブラーニングの手法の活用を推進する。
- － 成績優秀者の「吹きこぼれ」を防止する、高いレベルの教育方法の開発

(3) その他

- － 地域貢献活動への専攻生の参加促進策の検討
- － 海外研修、留学の促進に対する経済的支援の在り方の検討

5. 専門教育

5-3 経営情報専攻

1. 実績・現状

(1) 「経営情報概論」テキストの作成

平成 27 年度、初学者に経営情報専攻での学びを、より理解しやすく、より精確に教授することを目的として、本専攻オリジナルテキストを作成した。作成にあたっては経営情報専攻所属教員全員で取り組み、各教員の専門分野と「経営情報概論」で初学者に教育すべき内容のすり合わせを行った。

初学者にとって、「経営情報」の学習内容は多岐にわたり、全体像がつかみにくいという傾向が見られる。平成 27 年度「経営情報概論」テキストでは、経営情報におけるさまざまな学びを系統建てて概要として示し、経営情報の全体象から各自が特に興味を待った分野へと、今後の更なる専門的学びにむけて自らの方向性を見出す一助となることを目指した。

その結果、期末に行った授業アンケートにおいて、「経営情報概論」の総合評価が、平成 27 年度は 4. 13 となり、平成 26 年度の 3. 85 から 0. 28 ポイント改善された。平成 28 年度はさらに学生満足度の高い講義を目指し、それをサポートするテキストを作成する。

(2) 専門演習

8 名の教員が専門演習Ⅰと専門演習Ⅱを担当した。教員別の学生数は次の通りである。

専門演習Ⅰ：大西教授 5 名、高橋（哲）教授 6 名、長尾教授 5 名、村瀬教授 5 名、佐藤准教授 6 名、後藤准教授 5 名、小西准教授 5 名、

専門演習Ⅱ：大西教授 4 名、高橋（哲）教授 11 名、長尾教授 6 名、村瀬教授・佐藤准教授 7 名、後藤准教授 4 名、小西准教授 6 名、だった。なお、4 年生のうち 2 名が秋季入学生である（平成 28 年度 9 月卒業予定）。

なお、前期途中で退職した教員担当の専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱの学生に対しては、学生の希望に応じてゼミを決め、指導をおこなった。

(3) 経営情報実習

1) 実習概要

これまでに学んだ経営情報に関する専門知識を、企業における実習を通して、より実践的な知識にブラッシュアップすることを目的に行なわれた。併せて、課題解決力、コミュニケーション力、チームワーク力を醸成することを目的とした。対象学年は 3 年で 47 名が参加した。

実習先は昨年度に引き続き株式会社ジャパンフラワーコーポレーションと株式会社まちづくりとやまの 2 社である。実習は、平成 27 年 10 月～平成 28 年 1 月に 15 回実施した。

2) 実習の方法

学生を 2 つのグループに分け、「ジャパンフラワーコーポレーション」と「まちづくりとやま」の本社で実習を行なった。各グループでは更に 4～5 名のチーム（各グループそれぞれ 4 チーム）に分かれて作業を行なわせ、各チームにはそれぞれ企業から課題が与えられ、それらをチーム全体で検討しながら作業が行なわれた。最終日に成果発表会を行なった。

3) 各チームに与えられたテーマ

各チームにはそれぞれ以下のテーマが与えられた。

「ジャパンフラワーコーポレーション」では、全体のテーマは「花需要の拡大」で、各チームには次のサブテーマが与えられ、3 班に分かれ実習した。

各班のテーマは以下のとおりである。

1 班：顧客管理について 販促との連携強化策について

→「仏花の会」販促案、需要拡大案を作成した。

2 班：ご先祖様に感謝の気持ちでお花を飾ろう！

→「仏花の会」の現状を把握し顧客管理の視点から仏花の会の受注増案を作成した。

3 班：ネットを使った花需要の拡大、ウェブデザインについて

→「仏花の会」オンラインショップについて検討し、具体案を作成した。

「まちづくりとやま」では、全体のテーマは「中心市街地の活性化」で、4 班に分かれ、各チームのサブテーマと内容は以下の通りであった。

テーマ 1：グランドプラザ

→ 利用者へのアンケートを実施し、様々な問題点を分析した。

テーマ 2：地場もん屋 ウインター売上アッププロジェクト

→ 店舗で一通りの業務を体験し、売上などを分析した上で、「セールスゲート」を利用した販売促進を提案した。

テーマ 3：中心市街地の店舗調査とデータベースの作成、及び各店へのなかもん PR キャンペーン

→ 各店をまわりプロモーション活動を行ない、「魅力あるまちづくり」と「イベント開催」が必要であることを提案した。

テーマ 4：小学生向けまちなか社会見学ルートの作成

→ 小学校中～高学年向けのまちなか探検ツアールート（3ルート）策定した。

探検ツアールート広報のため、地図作りと子どもたちむけのクリスマスイベントを実施した。

4) 学生の評価

授業アンケートの結果は以下のとおり高い評価であった。

総合評価：4. 4 1、学生の自己評価：4. 4 7、目標の到達達成度：a(コミュニケーション力、チームワーク力、課題解決力などを向上させる)4. 5 3、b(大学で学んだ知識を活用することを学ぶ)4. 1 5、チューターの熱意：4. 7 6、授業の雰囲気：4. 7 0、実習場所の環境：4. 6 4

学生へのアンケート結果から主な意見を抽出すると次の通りである。

①身についた能力という視点から

圧倒的に多かったのがコミュニケーション能力だった。これは、グループ作業を行なうことによってコミュニケーションをとらざるを得ない状況に追い込まれたということだと推察される。これに関連して、共同で作業する能力やチームワークといった能力も多く見られた。また、課題解決力も多くあった。

②その他の意見として

「仕事というものを理解できた」、「積極性が大事だということが分かった」、「今まで話したことのない人と仲良くなれた」などのコメントが比較的多かったコメントである。

(4) 卒業研究

専門演習の集大成として、卒業研究発表会を平成28年2月9日(火)に実施し、38名が発表した(内2名は秋季入学のため、平成28年度9月卒業予定)。研究テーマは以下の通りである。

「富山の工業団地に関する一考察～富山の製造業を事例として～」

「アベノミクス下の金融政策が消費に及ぼす影響 ～資産効果の観点から～」

「産業財に関する事業モデルの考察～金融機能を果たす産業財企業の事例研究～」

「中国における所得格差問題」

「日本と外国との相互理解」

「人口減少時代を見据えた地域活性化策」

「音響機器業界の「これまで」と「これから」」

「ゆとり世代の社会進出」

「セ・リーグとパ・リーグにはなぜ実力差があるのか」

「奇瑞自動車と中国自動車市場の発展」

「コンビニエンスストアの経営戦略」

「より良い経済活動のための人間行動分析」

「中国のネットショップの発展について」

「しまむらが成長し続けるには」

「スターバックスの経営戦略」

「グローバル向け CM の提案を巡るための、日米 CM の比較」

「旅館の経営戦略について」

「電子書籍に関する研究」

「反日感情と今後の日韓関係」

「北陸新幹線開業による経済波及効果」

「NPBに学ぶスポーツビジネスの現状」

「高岡市商店街の現状と課題」

「電子掲示板サイトに関する研究-2ちゃんねるはどういうメディアか？」

「少子化と社会問題について」

「住宅問題に関する一考察 ー空き家対策と再利用」

「日本の少子高齢化と人口推移」

「球団の経営戦略」

「テーマパークからみる経営戦略 ー東京ディズニーリゾートとその他のテーマパークを比較して」

「SNS ゲームの現状と展望」

「カターレ富山と富山県サッカーの展望について～富山県サッカーの基盤の強化～」

「バスケットボールの歴史と発展 ～富山県の男子バスケットボールの現状と展望について～」

「マンチェスター・ユナイテッドの経営戦略」

「萩浦地区における地域活性化の考察」

「萩浦地区の活性化と今後の方向 ースポーツ公園と住友運河を中心にー」

「コンビニエンスストアの購買行動 ～おにぎりの併売分析～」

「ファッションビジネス ～ブランド力と購買者心理～」

「自動販売機の今後の価値向上戦略に関する一考察」

「ペット市場の現状と今後 ―時代の変化に伴う多様なニーズ―」

2. 課題

経営情報専攻の専門演習では学生の個別指導に力をいれており、その指導に応じて学外学修を含めて積極的に学習し行動する学生がいる一方、無気力な学生も存在するのが現状である。また、種々の問題を抱える学生を担当した教員は多くの時間とエネルギーをその学生に費やさざるを得ない。一部ではあるが学力あるいは精神的に問題を抱える学生もおり、実習や卒業研究での指導が困難な状況も見られた。これらについては、専攻教員間で情報交換をしながら全員で指導にあたる気持ちで取り組んできた。能力、意欲の面で学生に大きな差があることは確かだが、教育内容をさらに工夫し専攻学生全員の満足度を向上させていかなければならない。

また、専門演習での進路指導についても専攻会議で情報交換を行った。平成27年度は、就職率100%を達成、公務員、金融機関、地元有力企業への就職も増加した。専攻での教育指導内容の成果の一部だと考えている。一方、就職活動に悩む学生についても専攻内で情報を共有し、当該学生へのサポートを心掛けた。

経営情報専攻科目の講義については、学生のレベルの幅が広く、中間層に照準を置いた講義になる傾向が見られる。中間層に照準を合わせながらも、上下の層にある程度満足 of いく講義内容を今後も試行錯誤しながら行なっていくことが課題である。

また、アクティブ・ラーニングに関しては、だいぶ定着してきたが、さらに改善を加え、学習成果が高まる工夫を続けていくことが課題である。

6. 留学生教育

1. 実績・現状

(1) 総数

	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	研究生	計
学部留学生	8 名	12 名	16 名	11 名		47 名
交換留学生			9 名			9 名
研究生					5 名	5 名

留学生の出身国と人数： ネパール 2 名、タイ 1 名、韓国 1 名、中国 54 名、ロシア 3 名

(2) 奨学金受給状況

名称	月額	人数
ロータリー米山記念奨学金	100,000 円	1 名
学習奨励費	48,000 円	1 名
朝日国際教育財団	25,000 円	5 名
富山県国際交流奨学金	50,000 円	3 名
富山県国際交流奨学金	10,000 円	3 名
大学独自の奨学金	20,000 円	32 名

(3) 宿舎別入居状況

大学用意した留学生用宿舎 13 人、 民間アパート 45 人、公営住宅 1 人、その他 2 名

実績と課題

教職員が細部にわたり留学生の面倒を見たことにより、留学生たちは安心かつ充実した留学生生活を送ることができた。それについては留学生派遣側からも評価を得ている。

留学生のうちに、自立性が弱く、かつ日本語能力も低い学生が数名いた。今後さらなる指導と温かい支援を続けると同時に留学生の自立性を育てることも必要である。

また、退学 1 名、留年 2 名という現状において、年度によって留学生の質と日本語のレベルが違ふことから、今後生活指導にも力を入れなければならない。

(4) 日本語教育

留学生に早く日本での生活に慣れてもらい、大学の勉強についていけるように、そして将来国際社会に有用な人材になってもらうために、留学生に対して日本語の教育に力を入れてきた。1 年次入学時にプレースメントテストの成績によりクラス分けをして日本語の授業を行っていた。

① 通常の日本語クラス

留学生を対象にした日本語のクラス

基礎日本語Ⅰ・Ⅱ (週 2 回)

実践日本語Ⅰ・Ⅱ (週 2 回)

上級日本語Ⅰ・Ⅱ (週 1 回)

日本語補習 (週 1 回)

日本語総合 (集中講義)

② 通常の週一回日本語補習の授業以外に、銭輝支援員・湯により日本語の指導を随時に行った。

実績と課題

新カリキュラムのシステム導入後、留学生の間で、卒業までに日本語能力検定試験 1 級を取らないと卒業ができないという意識が少しずつ浸透してきた。各自が日本語の習熟度によって、自主的に検定試験を受けるようになった。昨年の 1 2 月までのテスト成績の把握状況は次の通りである。

日本語能力検定試験各年の合格者数：

	総人数	N1	N2
1 年生	8	2	2
2 年生	12	0	1
3 年生	16	1	7
4 年生	11	4	6

全体的には留学生の日本語の成績はまだ不十分であるが、いかに留学生の日本語のレベルを高めてあげるかは今後の課題であり、専任と非常勤の日本語授業の担当者との緊密な連携、情報交換、授業改善に力を入れることが急務である。

(5) 留学生生活指導

毎月 2 回、火、木曜日の午後 1 年生の留学生を対象とした特別教養演習を実施。(銭輝支援員・湯による)留学生の悩み、困ることについての相談、遵守すべき規律、守るべきルール等の指導とアドバイスを行った。

授業のほかになるべく日本の地域社会あるいは日本人との触れ合いできるチャンスを与えようというつもりで下記の体験活動を実施し、イベントへの参加を案内した。(安全のために山崎・湯が殆ど同行した)

	行 事	期 日	場 所	参加人数 (留学生)
1	外国人留学生県内研修 (富山市内お花見)	4 月 12 日(日)	富山市内	23
2	外国人留学生県内研修 (チューリップフェア会場 五箇山)	4 月 26 日(日)	砺波市	25
3	外国人留学生県内研修 (立山 雪の大谷)	5 月 16 日(土)	中新川郡立山町	22
4	国際交流サロン (百万石まつり参加)	6 月 6 日(土)～ 7 日(日)	石川県金沢市	5
5	外国人留学生就職説明会	6 月 24 日(水)	富山国際大学	24
6	外国人留学生 (巻き寿司体験)	8 月 5 日(水)	富山国際大学	30
7	外国人留学生京都研修旅行	9 月 14 日(月)～ 15 日(火)	京都市内	20
8	外国人留学生「黒部峡谷異文化体験」	11 月 7 日(土)	黒部市	22
9	富山市国際交流フェスティバルへの参加	11 月 8 日(日)	富山市	25

10	留学生日本異文化体験発表会の開催	同上	富山市	20
11	富山国際大学留学生総会・懇談会	12月18日(金)	富山国際大学	53
12	外国人留学生「雪の祭典」	2月13日(土)	立山山麓スキー場	15

実績と課題

留学生が勉学以外に積極的に地域社会の活動、イベントに参加するようになりつつあるので、地域社会から一定の評価を受けている。27年度もいろいろなボランティア活動への参加し、日本の社会、日本人、日本事情を理解することに大いに役立った。

今後より充実な留学生活が送られるために留学生一人ひとりに日本人と触れ合い、友人を作り、積極的にコミュニケーションを取る努力をしてもらいたい。卒業後は、日本社会ないし母国に貢献できる有用な人材となれるよう指導したい。

7. 教育改善・FD 活動

1. 実績・現状

(1) 平成 28 年度入学生以降のカリキュラム改定

1) 改定の目的・主旨

- ①変動する今日の社会状況に対応すること、海外留学や語学教育の充実をはかること地元の課題や企業等を深く理解することを目的として、平成 28 年度以降入学生に適用するカリキュラムを改定した。
- ②改定は教養科目ならびに専門科目の学部共通科目群を中心に行った。また、専門科目のうち一部の専攻科目に関しては、教育効果を高めるに開講時期の変更等を行った。

2) 主な改定点

①教養科目

- ・現代社会の諸相に関して理解を深め、共存・共生の在り方を考えるために共存・共生アプローチ科目群に「心理学の基礎」、「教養特別講座」、「憲法」を新設。
- ・語学教育充実、海外留学促進を図るため「フランス語Ⅰ・Ⅱ」、「TOEICⅠ・Ⅱ」を新設。
- ・地元企業への理解を深めるため、キャリア科目群に「経営者講座」を新設。
- ・「ビジネス情報演習Ⅰ、Ⅱ」と内容が重複する「プレゼンテーション」を廃止。
- ・「哲学の基礎」を社会生活基礎科目群に、「統計の基礎」を社会理解科目群に変更。

②専門科目群の学部共通科目

- ・地域における政策課題に関する知識を高め、地域課題発見への意識づけを図るために、「アジアとの交流と地域振興」を「地域課題探究講座」に変更し、地域づくり科目群に配置。
- ・今日の世界情勢を法律的視点のみならず政治学的視点を踏まえた幅広い視点から理解するために、「国際法」を廃止し「国際関係論」を新設。
- ・「国際協力・ボランティア論」と授業内容の一部が重複する「NPO・NGO 論」を廃止。

③専門科目群の環境デザイン専攻科目

- ・「バイオマスと環境演習」(3 年次後期開講)との連続性を明確にするために「バイオマスと環境」の開講時期を 2 年次前期から 3 年次前期に変更。

④専門科目群の経営情報専攻科目

- ・情報技術を利用したビジネスに関する内容に加え、具体的なマネジメント手法についても解説するために「e ビジネス論」を「e マネジメント論」へ科目名称変更。
- ・会計ソフトを活用するには、コンピュータシステムの知識に加え、経営管理と会計情報の関係についても学ぶ必要があるため「コンピュータ会計」を「管理会計」へ科目名称変更。
- ・電子化された画像情報の処理技術に加え、HP 作成等ネットワーク上での活用方法も解説する必要があるため「画像情報処理」を「情報メディア論」に科目名称変更。開講年次も 2 年次から 3 年次に変更。
- ・経営システムを支える情報技術に関しハードウェアを中心とする基本的内容を網羅するため「経営システム論」を「情報技術論」に科目名称変更。開講年次も 3 年次から 2 年次に変更。

(2) ホームページや電子掲示板の活用

- ・学内外に部活対外試合の結果、ボランティア活動、ゼミの学外活動といった学生の活躍ぶりを広報するため、ホームページの活用を促進した。

- ・学内においては、図書館等入口と厚生棟内に設置した大型液晶モニターを電子掲示板として活用し、授業の変更情報、大学からのお知らせとともに部活対外試合の結果等、学生の活躍ぶりを全学生に知らせるよう配意した。

(3) 優秀卒業論文の表彰

- ・卒業論文の質を高めるため、平成 26 年度より学位記授与式の際に各専攻の優秀卒業論文卒論 2 点、計 6 点のパネル展示を行うようにしたが、平成 27 年度からは優秀卒業論文に選ばれた学生を、学部の学位記授与式において学部長から表彰するようにした。本年度は以下の 6 名が表彰された。

白石 理奈(観光専攻)：富山市街地における案内サイン・地図の整備とその課題」

山本 早織(観光専攻)：「金沢を訪れる外国人観光客の現状と課題」

下尾 裕子(環境デザイン専攻)：洗濯行動に関する調査研究

渡邊 直輝(環境デザイン専攻)：大学キャンパス内の授業中における CO₂ 濃度

得能 康平(経営情報専攻)：富山の工業団地に関する一考察

ー富山県の製造業を実例としてー

藤井 美菜子(経営情報専攻)：コンビニエンスストアの購買行動

～おにぎりとの同時購買分析～

(4) 富山県寄付講義(現代社会学部分)の運営一元化

- ・富山県寄付講義の現代社会学部分は、従来年度末に近い時期にまとめて実施されがちであったが、より効果的に寄附講義を活用するために、学部学務委員会が全体計画を立て、後期の開始直後から開講が可能となるような体制を整えた。
- ・平成 27 年度は、以下の 5 講座が開講された。

2015 年 10 月 29 日 環境デザイン特別講義

恩賜財団済生会病院理事長 炭谷 茂氏「再生エネルギーと地域づくり」

2015 年 11 月 5 日 環境デザイン特別講義

読売新聞調査研究部主任研究員 秦野るり子氏「世界のゴミ事情」

2015 年 11 月 12 日 観光概論

(公財)九州経済調査協会常務理事兼調査研究部長 田代 雅彦氏

「旅行者からみた富山の観光の魅力」

2015 年 11 月 19 日 観光概論

(株)昼神温泉エリアサポート取締役・局長 村松 晃氏

「昼神温泉・阿智村 ～着地型観光への取り組み」

2016 年 1 月 28 日 ベンチャー・ビジネス論

大邱大学校 経商大学教授 李 應珍氏

「地域資源の活用と地域経済発展の方向ー慶北地域の農村ビジネスを中心にー」

(5) 授業改善に向けた F D 活動

1) 教員相互授業参観

- ・平成 25 年度に開始した「教員相互授業参観」は、平成 26 年度までに現代社会学部専任教

員全員が最低1回以上の授業を公開したが、平成27年度は内容をさらに深めて実施した。具体的には、授業を公開する教員が授業改善で取り組んでいる内容を「授業改善目論見書」として事前に公表し、参観する教員は「目論見書」の内容に重点を置いて参観することとした。「目論見書」は、小・中学校等の研究授業における「授業計画書」に相当するもので、参観後の振り返りワークショップ等において、ディスカッションのポイントを絞る狙いがある。

- ・平成27年度に公開した授業科目・担当教員は以下のとおりである。

平成27年度前期 平成27年6月29日(月)～7月10日(金)			
担当教員名	科目名	配当年次	曜日・時限
後藤 智	法学の基礎	1年	月1
高尾 哲康	経営システム論	3年	月1
高橋 ゆかり	地球環境論(自然環境)	2年	火1
助重 雄久	都市と観光	3年	水1
村瀬 直幸	環境・社会・企業と倫理	3年	水2
大谷 孝行	コミュニケーションの基礎	1年	水・金2
大西 一成	日本経済論	2年	木1
佐藤 悦夫	世界遺産論	3年	木3
佐藤 綾子	会計基礎演習Ⅰ	1年	金1
才田 春夫	国際協力・ボランティア論	1年	金1
小西 英行	経営の基礎	1年	金3
平成27年度後期 12月8日(火)～12月21日(月)			
担当教員名	科目名	配当年次	曜日・時限
★大谷 孝行	環境デザイン概論	1年	月2
川本 聖一	生活環境論Ⅱ(住環境デザイン)	2年	月3
★大西 一成	現代社会時論	1年	月3
★パブリー・ボクダン	基礎英語Ⅱd	1年	木4
パブリー・ボクダン	ロシア語	1年	火・木3
高橋 光幸	観光資源論	2年	火4
尾畑 納子	生活と水環境	2年	水1
★高橋 ゆかり	環境基礎演習	2年	水2
長尾 治明	マーケティング戦略	2年	木1
湯 麗敏	観光中国語	3年	木1
高橋 哲郎	ベンチャー・ビジネス論	3年	木2
上坂 博亨	資源・エネルギー論	2年	金1
★佐藤 綾子	会計基礎演習Ⅱ	1年	金1
上坂 博亨	プレゼンテーション	2年	金2

★は追加科目

- ・参観者のコメントは、全て取りまとめて全専任教員に配布し、参観者による口頭報告と全体ディスカッションによって、知見を教員全員が共有するとともに、今後の授業改善のヒントとして活用した。

2) 授業改善アンケート

- ・平成27年度の担当授業で行った授業改善の内容について、全専任教員を対象としたアンケートを実施した。結果は全教員に配布して知見を共有するとともに、抜粋したものを学生全員に配布した。

3) 現代社会学部FDワークショップおよびFD研修会の開催

①第1回FDワークショップ 平成27年9月9日(水)

- ・話題提供：「FDの意義について：最近の動向」(担当：小西英行)
- ・相互授業参観フリーディスカッション
- ・公開授業担当者の「見どころ」についてのコメントと、それに対する参観者のコメント、

並びにそれらを踏まえた全体ディスカッションを行った。公開授業担当者も参観者も、今後の授業改善に向けてのヒントを得ることが出来た。

②第2回FDワークショップ 平成28年2月10日(水)

- ・第1回に引き続き、公開授業担当者の「見どころ」についてのコメントと、それに対する参観者のコメント、並びにそれらを踏まえた全体ディスカッションを行った。
- ・1年間で全教員が授業公開と授業参観を行い、2回のFDワークショップにおいてディスカッションを行ったことで、教員相互の授業改善の現状への理解が深まり、今後の授業改善に向けてのヒントを得ることができた。

③第1回富山国際大学全学FD・SD研修会 平成28年3月11日(水)

- ・日本私立大学協会教務部課長相当者研修会報告

【報告Ⅰ】全体報告・分科会報告(山田 太郎 学務部教務課主査)

【報告Ⅱ】分科会報告(村上 満 学務部次長・子ども育成学部教授)

山田主査および村上教授より、研修会のテーマである「私立大学における学士課程教育の戦略的改善～学生課程改革の特色と課題～」について、本学のFD・SD活動の現状を踏まえて説明があった。その後参加者によるディスカッションを経て、本学におけるFD・SDの現状の理解と今後の方向性について相互理解を深めた。

- ・「Web シラバス・システム」を核としたAP 事業推進について

【講師】富山短期大学 安達 哲夫 副学長(経営情報学科)

富山短期大学 坂井 一貴 准教授(経営情報学科)

クオリカ株式会社 産業事業本部 第一事業部 システム第五部 中嶋 豊 氏

学園内の富山短大で導入しているWeb シラバス・システムの現状について、安達副学長からはAP事業における位置づけ、坂井准教授からは実際の授業での活用状況、中嶋氏からはシステムの運用と今後の方向性について説明があった。参加者によるディスカッションを経て、現代社会学部・子ども育成学部での導入時期・方法について今後検討を進めることとなった。

2. 課題

(1) カリキュラムツリーの再整備やナンバリングの実施

- ・平成28年度以降入学生に適用するカリキュラムを改定したのに伴い、カリキュラムツリーを再整備し、学生や受験生にわかりやすく示す必要がある。
- ・平成27年度に出たナンバリング案は、学部間調整の必要性がありペンディングとなっているが、改定後のカリキュラムに則して早急に整備することが課題となる。

(2) GPAの成績評価への活用

- ・全学学務委員会ではGPAが概ね1.0以下の学生に関しては進級・卒業を認めない方向性が示されたが、運用にあたっては以下の点が課題となる。
- ・単位数による進級・卒業要件との違いを明確に学生に周知する必要がある。
- ・現行制度では留学・インターンシップ等で修得した認定科目の単位がGPAの対象とならないため、留学・インターンシップに参加した学生ほどGPA対象科目が減り、不利となる場合がある。また、意図的に登録単位数を減らし、良い成績をとった学生ほど有利になる。こうした問題点をふまえた抜本的な制度の見直しが必要となる。

- ・シラバスに記載した成績評価方法に基づき、学生に明確に説明できるような評価を行うよう全教員に周知徹底し、成績分布が偏る科目が生じないように配慮する必要がある。

(3) 卒業論文のレベルアップ

- ・卒業論文に関しては、優秀卒業論文の表彰の実施や各専攻による発表会の活発化により確実に内容が向上しており、卒業生アンケートでも卒論指導に対する満足度が向上している。一方で、学生によって内容のレベルに差が生じているのも否めない。一層のレベルアップを目指すためには以下のような取組みを行うことが課題となる。
- ・卒業研究を含む「専門演習Ⅱ」の単位数は12単位である。卒業論文は8単位に相当するので、ゼミ以外に相応の指導時間をとる必要がある。そのことを指導教員が十分認識するとともに、卒論を執筆する学生にも周知徹底する必要がある。
- ・卒論発表会は年に2回実施している専攻と3回実施している専攻があり、実施時期にも若干の差がある。専攻の考え方もあるので統一する必要はないが、どの時期の発表会をどんな意図で実施するのかについて明確にすることが課題となる。
- ・卒業論文提出後の発表会においては、昨年度まで一部の専攻で発表要旨を作成していなかったが、全専攻の全学生の卒論要旨を作成することが必要である。

(4) 授業改善に向けたFD活動

1) 教員相互授業参観

- ・平成27年度前期のベストティーチャー賞に該当した教員の授業を、全専任教員で参観し、優れた内容をシェアするとともに、今後の授業改善に生かす。当該教員には、事前に授業計画書を提出してもらい、「見どころ」を事前にアナウンスしてもらう。

2) FD ワークショップ及びFD 研修会

- ・「アクティブ・ラーニングのツール集（仮題）」というテーマで、平成27年度前期のベストティーチャー賞に該当した教員を中心に、前期に実施予定の授業参観FDの内容とともにグループワークを中心としたワークショップを開催する。

3) 産業界 GP の成果の継承・

- ・産業界 GP(平成26年度まで実施)で整備したアウトカム指標は、到達目標に対する5段階の到達度を、学生自身が客観的に判断できるような表現で提示することにより、測定手法の精緻化を行い、授業改善やアクティブ・ラーニングのさらなる向上に役立てていく。

8. 学生活動・生活支援

1. 実績・現状

(1) 学生主体の大学づくりに向けた取組み

1) 学生との意見交換会の開催

- ・学友会役員、大学祭実行委員、クラブ会会長および学長、学務部長、学部学務委員長との懇談会開催し、学生との意見交換、学生生活・授業・施設に関する要望の聴取等を行った(平成 27 年 12 月 9 日)。
- ・学友会役員、学務部長、事務部長、学生課係長、学部学務委員と食堂の運営委託先企業担当者間で、食堂の活性化に関する意見交換を行った(平成 27 年 7 月、平成 27 年 12 月)

2) 学生主体の大学行事運営とその支援

- ・各種行事については、学生が主体となって運営することを促し、教職員がサポート役に回することで、学生の自主性を高めるようにした。いずれの行事においても反省会を行い、それを次年度に生かすことで行事の活性化がはかられている。
 - ① 新入生歓迎会(平成 27 年 4 月 7 日)
 - ② スポーツ文化交流会(平成 27 年 6 月 5 日)
 - ③ 学友会総会(平成 27 年 7 月 23 日)
 - ④ オープンキャンパス(平成 27 年 7 月 25 日、8 月 22 日)
 - ⑤ 大学祭(紅嶺祭)(平成 27 年 10 月 24～25 日)
 - ⑥ 東黒牧キャンパス交通安全運動(毎月 1 回)
 - ⑦ クリスマスイベント(イルミネーションの点灯、クリスマスケーキの配布、平成 27 年 12 月 3 日～平成 28 年 2 月 10 日)
 - ⑧ クラブ会総会(平成 28 年 3 月 4 日)
 - ⑨ 卒業記念パーティー(平成 28 年 3 月 18 日)
- ・上記の例年行事とは別に、現代社会学部では学友会主体でネパール大地震の募金活動を行い、平成 27 年 6 月 17 日にこども育成学部のネパール復興支援委員会の集めた募金とともにネパールからの留学生に対する贈呈式が行われた。
- ・こども育成学部の学生との情報交換を活性化するために、両学部協働で実施する行事の事前打合せをウェブ会議で行う試みをした。これにより交通の問題が解消され有用であった。
- ・学生の活動を、広報誌のコスモス通りやホームページで積極的に紹介した。

(2) 学生生活関係アンケート

1) 学生生活アンケート(平成 27 年 9 月 29、30 日実施)

- ・アンケート結果からネット・通信環境、通学、両学部の交流に関しての要望が強いことが明らかになった。
- ・女子学生の要望をより明確化するために、平成 27 年 12 月に無作為で抽出した 26 名の女子学生を対象にアンケート及びヒアリング調査を実施した。その結果、交通手段の拡充が重点課題であることが明らかになった。

2) 卒業生アンケート(平成 28 年 2 月、各専攻卒業論文発表会終了後に実施)

- ・大学生活全体の満足度に関し、満足・やや満足の構成比が上昇した。その内容を見ると、学習環境よりも授業科目の評価において改善が見られる。また、自己の成長に関する認識については、継続して改善傾向にある。なお、本年度より当アンケート調査はマークシートを活用し実施した。

(3) 交通安全指導

- ・毎月実施している学生主体の交通安全運動に加え、平成 27 年 8 月 6 日に富山南警察署より講師を招聘し、夏期交通安全講習を実施した。
- ・在学生が重傷を負う交通事故が発生したことから、学生に一斉メールを配信し注意喚起をしたほか、平成 27 年 12 月 16 日に緊急の交通安全講習会を開催した。

(4) クラブ・サークル活動(休部中のものを含む)

[部・10 団体]硬式テニス部(休部中)、硬式野球部、サッカー部、女子ハンドボール部、男子バスケットボール部、ボート部、軽音楽部、茶道部、吹奏楽部、ボランティア部

[サークル・10 団体] バドミントンサークル、環境サークル、芸術サークル、国際交流サークル、中国サークル(休部中)、経済リサーチサークル、B 研(ビジネス資格研究会)、囲碁サークル(休部中)、バスケサークル(新規)、ダンスサークル(新規)

※承認待ち：韓国文化研究サークル

2. 課題

(1) 学内環境の改善に向けた調査、提言

- ・学生生活アンケートでは交通手段の拡充に関する要望が強い。交通機関との調整等、学内外の調整が必要な事象であり対応は容易ではないが、学生からの要望が強いとの認識を学内で共有する。
- ・平成 28 年度よりパソコン教室の仕様が変更されたことから、その影響につき注視する。

(2) 学生・教員活動の広報強化

- ・部活動の対外試合の予告や結果、ボランティア活動、ゼミの地域貢献活動等を学外向けにはホームページ、学内向けには電子掲示板等を活用して広報していく。
- ・教員の教育研究内容(特色のある授業や研究成果)の公開も進めていく。

(3) 交通安全の強化

- ・昨年度、大きな交通事故が発生したため、引き続き富山南警察署とも連携を取りながら、さらなる注意喚起を促す。

(4) 「夢へのかけ橋助成事業」の改善、活性化

- ・事業の活性化を図るため、平成 28 年度からゼミでの地域貢献活動等にも積極的に助成する方向で検討する。
- ・学長裁量経費等を、活発にゼミ活動を行うゼミの活動費(地域貢献活動費や調査報告書作成費等)に配分してもらうことも検討し、学長に要請する。

9. キャリア支援

1. 実績・現状

(1) キャリア講座

現代社会学部のキャリア講座として、1年次のキャリアデザイン講座と3年次のキャリア支援講座がある。キャリアデザイン講座では、今年度は昨年度に引き続き基礎学力向上を第一の目標とした。具体的には文章能力を高める内容を主体とした。キャリア支援講座は例年通り実践的な内容を盛り込んだ講座とした。キャリア支援講座の主な内容は次の通りである。「海外インターンシップ体験発表会」、「就職試験プレテスト」、「企業研究」、「OB/OGの職場経験」、「演技講座」、「履歴書の書き方」、「グループディスカッション」、「県内企業の紹介」、「スーツの着こなし方講座」、「プレゼン技術」、「模擬面接実習」、「4年生の就職活動体験談」。以上のようにバリエーション豊かなテーマを盛り込んだ。

(2) SPI

今年度は1年次「キャリアデザイン講座」と2年次の教養演習の中でSPI演習を実施した。これは1・2年次での基礎学力向上を目指したものである。

(3) インターンシップ

例年行なわれているインターンシップ推進協議会主催の夏季インターンシップには3年生を中心として37名（3年生35名、2年生2名）が参加した。

海外インターンシップとしては、富山県が主催する大連 YKK での実務研修があり、今年度は1名が参加した。また、国際交流センターの協力を得て、中国江蘇省・南通大学（南通東レ）でのインターンシップを実施し、2名の学生が参加した。

(4) 公務員試験対策講座（PAP）

質の高い学生の受入体制を整えるために、26年度から公務員試験対策講座 PAP（パブリックサーバント・アプリケーション・プログラム）を開設した。

コースは、公務員行政職コース（ステップ1～4の4年コース、4ステップ合計で285回427.5時間）、消防警察コース（1年間で75回112.5時間）、消防警察短縮コース（1年間で30回45時間）である。公務員行政職コースについては、今年度はステップ1とステップ2のみの開講で、次年度以降順次、ステップ3、ステップ4を開講する計画である。今年度は公務員行政職コース14名、消防警察コース3名、消防警察短縮コース2名、合計19名が参加した。行政職に関しては、1～2年生が受講生のため、講座の成果が出るのは29年度以降となる。

(5) 資格取得支援

資格取得を支援するために、国内旅行業務取扱管理者講座（受講者19名）、総合旅行業務取扱管理者講座（受講生2名）日商簿記2級・3級講座（受講者10名）、コンピュータサービス技能評価試験ワープロ部門2級講座（受講者10名）を実施した。

(6) 学内合同企業説明会

28年3月2日と7日に東黒牧キャンパスで学内合同企業説明会が開催された。3日は73社、6日は73社。合計141社参加した。また、両学部から83名の学生が参加した。

(7) 就職状況

28年3月末現在、現代社会学部卒業生の就職率は100%であった。また、銀行・信用金に6名が就職する等、質の面でも昨年度と同様、一定の成果を挙げることができた。

2. 課題

27 年度は記述の通り、就職先の量の確保だけでなく、質の向上が見られた。また、26 年度に解説された公務員試験対策講座 PAP による行政職の成果は 29 年度以降となるが、この講座の開講が入学生の質の向上にも寄与していると考えられる。PAP に限らず、記述の施策の効果は徐々に積み重ねられていくと考えている。従って、来年度以降も、地道にこれら施策を継続していくことが重要であると思われる。

10. 国際交流

1. 海外&国内教育機関との協定

(1) 新たに「2+2 協定」を締結した大学

- ・ 南通大学 H27. 8. 1 締結

(2) 学部協定から全学協定に移行（再締結）した大学

- ・ 大邱大学校学術交流協定書(全学版) H28. 3. 23 締結

(3) 国内の日本語学校

- ・ 丸の内ビジネス専門学校 H27. 12. 7

2. 受入学生数 22 名

- ・ 学部生 9 名（天津社会科学院 3 名、富山国際学院 1 名、大連海洋大学編入学 1 名、その他の日本語学校 3 名、韓国の高校 1 名）
- ・ 交換留学生 13 名（大連海洋大学 5 名、ハルビン理工大学 2 名 中国海洋大学 2 名、ウラジオストック経済サービス大学 4 名）

表1. 留学生数の推移										
	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	合計※
	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	
海外日本語学校	16	20	21	18	10	12	11	3	5	195
国内日本語学校	0	0	0	0	1	3	0	5	1	10
2+2	0	0	0	0	3	2	2	1	2	10
正規生合計	16	20	21	18	14	17	13	9	8	215
交換留学生	17	17	14	15	17	15	10	13	7	149
受入留学生総数	33	37	35	33	31	32	23	23	15	364
※合計は2001～2016前期までの分										

3. 本学学生の海外派遣数 45 名

- (1) インターナショナルプログラムズ(短期) 5 名
 - ・ 5 週間（オーストラリア（現社 2 名、子ども育成 3 名）
- (2) インターナショナルプログラムズ(長期) 4 名
 - （フランス 1 名、中国 1 名、韓国 1 名、ロシア 1 名）
- (3) 海外インターンシップ（南通） 3 週間 2 名
- (4) 異文化研修(中国 8 月 26 日～9 月 2 日 8 日間) 5 名
- (5) 異文化研修(韓国) 9 月 13 日～20 日 8 日間) 6 名
- (6) 異文化研修（タイ）8 月 22 日～9 月 5 日 16 日間) 8 名
- (7) 国際交流実習（タイ）2 月 23 日～3 月 13 日 22 日間 10 名
- (8) 環境専門研修（デンマーク）2 月 5 名

表2. 海外派遣学生数の推移									
	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	合計
長期留学(3ヶ月以上)	2	2	1	4	3	6	1	4	23
短期留学(1ヶ月程度)	2	2	3	2	2	1	2	5	19
留学小計	4	4	4	6	5	7	3	9	42
研修・交流	8	27	20	24	31	32	19※	34※	195
インターンシップ							2	2	4
派遣合計	12	31	24	30	36	39	24	45	241
※テロ事件発生により異文化研修(フランス)キャンセル									

4. 国際交流に関するイベント

- ・国際交流フォーラム「グローバル社会における国際貢献・地域貢献について考える」

開催日時：平成 27 年 11 月 3 日（火）13：00～16：10

記念講演「国際貢献・地域貢献について考える～スーダンと東北支援の活動現場から～」

講師：川原尚行医師 認定 NPO 法人／国際 NGO ロシナンテス理事長

参加者：343 名（内訳：学生 306 名、社会人 17 名、教職員 20 名） 5. チューター学生

前期 15 名（日本人 8 名、留学生 7 名） 後期 15 名（日本人 8 名、留学生 7 名）

6. 留学生向け就職説明会開催 6 月 24 日（水） 11 名参加

7. 語学力向上のための SD・FD 研修会開催 8 月 21 日 13 名参加

8. オンライン TOEIC 対策講座（アルクスマートラーニング） 受講者 30 名（現社 15 名）

9. サマースクール

期間 8 月 4 日（火）～8 月 11 日（火） 参加者 33 名（教員 2 名含む）

参加者内訳：南通大学 学生 26 名、教員 2 名、ハルビン理工大学学生 5 名

交流会参加学生（TUINS）本学学生・教職員 16 名

10. 成果と課題

- （1）**海外協定大学**は 2 校増え、8 か国 16 校となった。更に増やす努力をしており、中国 1 大学とカナダ 1 大学と話し合いを進めている。英語圏の協定校、しかも授業料免除になる大学を増やすべく努力している。現在、アメリカの PSU とは授業料相殺の協定を結ぶべく協議中である。

- （2）中国からの**正規留学生**の減少が著しく、2015 年度以降は数名の確保に留まっている（表 1）。人数の減少と共に質の低下も著しく、入学時に日常会話も覚束ない学生が目立ち、本学の評価を低下させることが危惧される。一方、編入生（ダブルディグリー）の確保に 2 年前から取り組んできた成果が、ようやく表れてきた。**編入生**は基礎学力も日本語レベルも高く、勉強熱心であることから、本学の質の向上に貢献してくれるものと期待している。このことから、今後は 1 年生の過度の入学促進を改め、編入生の安定的な確保に努力すべきと考えている。今後もダブルディグリー協定校を増やしていきたい。

サマースクールに参加した学生、教員の对本学に対する評価が高く、編入生の入学に結びつく可能性を見出した。H28 年度は、サマースクールを海外大学生向けオープンキャンパスと位置づけ、正規授業に参加する機会を設けたい。

- （3）**海外派遣学生数**は 2011 年以降、やや増加傾向にあったが、2015 年に急激な増加を示した（表 2）。その要因は、現代社会学部の入学者の質の向上と景気回復傾向により、保護者の理解が進んだことが根底にあると思われる。更に、留学奨励金の創設、日本学生支援機構（JASSO）の奨学金獲得、海外プログラムの充実化など、大学や教員側の努力も大きな要素である。異文化研修（タイ）と国際交流実習に参加した 18 名のうち、13 名が JASSO 奨学金（7 万円）受領者である。従って、今後も、JASSO 奨学金が確保できるように、プログラムの充実に努力しなければならない。

11. 地域交流・地域貢献

11-1 地域交流

1. 実績・現状

(1) エクステンション・カレッジ及びサテライト市民講座Ⅰ・Ⅱの実施

- ・エクステンション・カレッジは17講座を開講した。地域社会に根ざしたテーマ、及び、英語、中国語、タイ語など語学系の講座において安定した受講者数を維持し得た。
- ・「サテライト市民講座Ⅰ・Ⅱ」（講演会形式）を開講した。歴史、心理、法学、経済、マーケティング等の分野のテーマで14講座を開講し、受講者総数は138名であった。

(2) エクステンション・カレッジ特別講演の実施

① 日時：5月30日(土) 13:30～15:00

講演者・演題：藤井 大輔 氏 『仕事で運を味方につける人の習慣とは？』

参加者数：約80名

② 日時：10月3日(土) 13:30～15:00

講演者・演題：大越 健介 氏 『ニュースキャスターが見た現在』

参加者数：約80名

③ 日時：10月31日(土) 13:30～15:00

講演者・演題：王 理恵 氏 『大人の食育～健康の秘訣は野菜と果物～』

参加者数：約90名

※②の大越 健介 氏による講演会は、年度当初計画していたものではなく、同氏の協力を得て、急遽行うことが可能となったものである。マスコミを通じて高名であったことから、準備期間が短かったにも関わらず多くの参加者を招くことができた。

(3) 『2015 エクステンション・カレッジ』レビュー作成

2015年度開講した全講座に関するレビューを発行。(2016年5月)

(4) その他～サテライト・オフィスの市民への開放

富山市男女共同参画による2回の講演会が定着した。高校生の利用は、CiCビル内に図書館施設ができたことから、漸減傾向にある。

2. 課題

- (1) エクステンション・カレッジへの集客が課題である。そのためにも、タイムリーなテーマ設定と広報活動のより積極的な展開が望まれる。平成27年度は、市民になじみ深い「サテライト市民講座Ⅰ・Ⅱ」の拡充を図り、参加者の拡大を図ることが急務である。そのために、各学部の教員の協働により学部単位で講座を開講する予定である。
- (2) 平成27年度の「エクステンション・カレッジ特別講演会」については、平成25年度のように年2回の実施に立ち返る。また、人選においては、地元ゆかりのある現在活躍中の講演者を招聘することが求められる。
- (3) 学内の連携による他の行事によるサテライト・オフィスの利用拡大が求められる。また、本学が主催して、学外の団体、機関との共同による利用も促進する必要がある。
- (4) 全体の利用者数の増加を目指す。ここ3年間利用者数の減少は否めないが、これはCiCビル内に他の学習室が設置され、そこが高校生などに利用されるようになったことなどが影響したと考えられる。当面の目標として年間2500名以上の利用者数を目指したい。

11. 地域交流・地域貢献

11-2 地域貢献

1. 実績・現状

(1) 地域貢献活動

教員による地域貢献活動教員は以下のとおりである。

区分の凡例

1. 国際大学「地域出講プログラム」
2. 行政に関わる組織、委員会、審議会等の理事・委員
3. 大学主催以外の講演会、シンポジウムやマスコミ関係行事への参加
4. その他(上記に該当しない場合)

名前	番号	月日・期間 (回数)	依頼元	講演名等	区分
上坂博亨	no.1	7月27日	ホクサン株式会社	水素エネルギーセミナー	1
上坂博亨	no.2	7月18日	富山県婦人会	平成27年度富山県婦人会家庭教育研究集会の講師派遣	1
上坂博亨	no.3	12月05日	下新川郡公民館連絡協議会	講師派遣依頼	1
上坂博亨	no.4	11月29日	まちてん実行委員会	まちづくりビジネスEXPO『まちてん』	1
上坂博亨	no.5	10月15日	富山市教育委員会	富山市民大学	1
上坂博亨	no.6	10月15日	南砺市エコビレッジ住宅ゾーン委員会	デンマークのエコビレッジについて	2
上坂博亨	no.7	12月03日	国土交通省	資源としての河川利用の高度化に関する検討会	2
上坂博亨	no.8	4月12日	日本科学者会議	北陸地区福井大会・シンポジウム	3
上坂博亨	no.9	5月30日	建設トップランナー倶楽部	富山視察研修会	3
上坂博亨	no.10	8月03日	大阪科学技術センター	スマートグリッド・スマートコミュニティー研究会	3
上坂博亨	no.11	10月01日	公益社団法人日本技術士会	第42回技術士全国大会講演会	3
上坂博亨	no.12	12月04日	国立大学法人富山大学長	富山大学 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)キックオフシンポジウム	3
上坂博亨	no.13	3月06日	南砺市	富山国際大学、南砺市連携シンポジウム	3
上坂博亨	no.14	5月28日	(公財)国際交通安全学会IATSSフォーラム	第53回IATSSフォーラム研修	4
上坂博亨	no.15	8月26日	関西広域小水力協議会	小水力発電富山県視察	4
上坂博亨	no.16	10月31日	(公財)国際交通安全学会IATSSフォーラム	第54回IATSSフォーラム研修	4
上坂博亨	no.17	5回	富山県小水力利用推進協議会	会長 委員会出席	2

上坂博亨	no.18	10回	(一社)でんき宇奈月プロジェクト	副理事長 委員会出席	2
上坂博亨	no.19	1 回	(一社)蓄電型地域交通推進協会	理事 委員会出席	2
上坂博亨	no.20	1 回	富山市環境未来都市農村活性化 PT	委員会出席	2
上坂博亨	no.21	1 回	とやま 21 世紀水ビジョン推進会議	委員会出席	2
上坂博亨	no.22	2 回	NPO 法人エコテクノロジー研究会	理事 委員会出席	2
上坂博亨	no.23	1 回	富山県キャンプ協会	副会長 委員会出席	2
上坂博亨	no.24	2 回	春まちコンサート実行委員会	委員長 委員会出席	2
上坂博亨	no.25	8 回	南砺市エコビレッジ住宅ゾーン委員会	委員長 委員会出席	3
上坂博亨	no.26	3 回	南砺市エコタウン事業化委員会	委員長 委員会出席	3

名前	番号	月日・期間 (回数)	依頼元	講演名等	区分
大谷孝行	no.1	4 月 24 日	富山市食生活改善推進連絡協議会	平成 27 年度富山市食生活改善推進連絡協議会定例総会における特別講演の講師派遣依頼	1
大谷孝行	no.2	5 月 16 日	富山市	講師派遣依頼(サテライト・オフィス一場所)	1
大谷孝行	no.3	11月14日	富山県教職員厚生会	平成 27 年度「健康セミナー」講師	1
大谷孝行	no.4	4月～3月の 第1日曜 (計 9 回)	NPO 法人生活の発見会	富山集談会における司会担当	4
大谷孝行	no.5	5月～3月の 隔月 (計 5 回)	富山県バスケットボール協会	富山県バスケットボール協会理事会に出席	2
大谷孝行	no.6	5 月 04 日	北信越大学バスケットボール連盟	春季理事会・委員会合同会議に出席	2
大谷孝行	no.7	6 月 25 日	富山県バスケットボール協会	富山県バスケットボール協会広報部会に出席	2
大谷孝行	no.8	7 月 11 日	富山市	サテライト市民講座「日本の社会を笑いから考える」というタイトルで講演担当	1
大谷孝行	no.9	8 月 09 日	NPO 法人生活の発見会 浜松集談会	「森田療法と私～強迫神経症を超えて～」というタイトルで講演担当	3
大谷孝行	no.10	9 月 10 日	大学コンソーシアム富山	大学コンソーシアム富山 FD&SD 研修会に参加	3

大谷孝行	no.11	9月26日	神通さくら野会	神通さくら野会 10 周年記念行事で講演「笑いを忘れない人生」を担当	3
大谷孝行	no.12	10月16日	北信越大学バスケットボール連盟	秋季理事会・委員会合同会議に出席	2
大谷孝行	no.13	10月22日	愛宕地区自治振興会	講演「笑いは人を救う」を担当	3
大谷孝行	no.14	11月03日	富山国際大学	国際交流フォーラムに出席	4
大谷孝行	no.15	11月23日	発願寺	講演「哲学者たちの幸福論」を担当	3
大谷孝行	no.16	12月13日	NPO 法人生活の発見会中部支部	体験発表「私にとってのあるがまま～強迫性障害の克服～」を担当	3
大谷孝行	no.17	12月27日	富山県バスケットボール協会	富山県籠球懇話会に出席	2
大谷孝行	no.18	1月21日	大学コンソーシアム富山	「高大接続改革について」においてパネリストを担当	3
大谷孝行	no.19	2月17日	富山市保健推進員連絡協議会	講演「笑いの意味やすばらしさ」を担当	3
大谷孝行	no.20	2月19日	富山県社会福祉協議会	講演「それでもやっぱり笑いましょう」を担当	3
大谷孝行	no.21	3月04日	富山南少年補導員連絡協議会	講演「笑いコミュニケーション」を担当	1
大谷孝行	no.22	3月05日	富山県バスケットボール協会	富山県バスケットボール臨時評議員会に出席	2

名前	番号	月日・期間 (回数)	依頼元	講演名等	区分
大西一成	no.1	6月20日	富山市男女共同参画推進センター	男女共同参画サテライト講座『知っておきたいくらしの経済～豊かな暮らしを考える～』	3
大西一成	no.2	2014～（現在に至る）	大学コンソーシアム富山	大学コンソーシアム富山地域貢献部会委員	2
大西一成	no.3	2014～（現在に至る）	大学コンソーシアム富山	大学コンソーシアム富山地域貢献部会委員	4
大西一成	no.4	7月01日	富山第一銀行奨学財団	富山第一銀行諸学財団研究助成研究報告『国際経済と生産性に関する一考察～富山県内の製造業を中心として～』	4
大西一成	no.5	7月18日	富山国際大学	サテライト市民講座 2『日本経済の諸問題～少子高齢化、財政赤字～』	4
大西一成	no.6	8月1日、08日、29日	富山国際大学	エクステンション・カレッジ『豊かな暮らしを考える～アベノミクスで私たちの暮らしは豊かになったか～』(3回シリーズ)	4
大西一成	no.7	11月09日	富山国際大学	COC地域連携推進委員会メンバー	4

大西一成	no.8	11月28日、 12月12日、 1月9日	富山国際大学	エクステンション・カレッジ『「地域社会の発展のための要因」って何だろう?』(3回シリーズ)	4
大西一成	no.9	2月16日	大学コンソーシアム富山	平成27年度「学生による地域フィールドワーク研究助成」成果発表会	4
大西一成	no.10	1月26日	南砺市	南砺市連携協議会	3
大西一成	no.11	3月06日	南砺市	連携協定提携記念フォーラム	3

名前	番号	月日・期間 (回数)	依頼元	講演名等	区分
尾畑納子	no.1	7月22日	総務省 富山行政評価事務所	行政相談出前教室	1
尾畑納子	no.2	6月11日・ 12日	富山県消費者協会	平成27年度全国消費者協会連合会会計監査会及び理事会(2回)	2
尾畑納子	no.3	9月24日	富山県環境科学センター	平成27年度富山県環境科学センター研究課題外部評価委員会	2
尾畑納子	no.4	12月16日	第68回全国植樹祭富山県実行委員会	第68回全国植樹祭富山県実行委員会第3回幹事会	2
尾畑納子	no.5	5月13日・ 10月08日	富山県男女参画・県民協働課	第2回「協働事業補助金検討会」(2回)	2
尾畑納子	no.6	5月18日・ 24日	富山市長	富山市公募提案型協働事業審査委員(2回)	2
尾畑納子	no.7	5月21日・ 27日	富山県消費者協会	富山県消費者協会委員会(2回)	2
尾畑納子	no.8	7月31日	富山市長	富山市環境審議会委員会	2
尾畑納子	no.9	9月01日	北陸財務局	国有財産北陸地方審議会委員会	2
尾畑納子	no.10	6月5日・ 2月29日	(公)富山県新世紀産業機構	「とやま産学官交流会 2015(仮称)」企画連携会議・報告会	4
尾畑納子	no.11	11月12日	富山市教育委員会	富山市教育委員の行政視察	4
尾畑納子	no.12	(H28年) 3月28日	富山県	環境審議会・廃棄物部会廃棄物処理計画の答申	2
尾畑納子	no.13	8月19日 -22日	富山県知事政策局	世界遺産と立山カルデラ・砂防	3
尾畑納子	no.14	10月22日	富山市教育委員会	富山市民大学「おいしい水のルーツを探る」	3
尾畑納子	no.15	(H28年) 2月16日	富山ロータリー倶楽部	立山砂防を語り伝える女性たち	3
尾畑納子	no.16	2月26日	富山県消費者連合団体	消費者市民社会の形成に向けて	3

名前	番号	月日・期間 (回数)	依頼元	講演名等	区分
川本聖一	no.1	1 回	富山県職業能力開発協会	富山県技能検定 首席技能検定委員	4

名前	番号	月日・期間 (回数)	依頼元	講演名等	区分
才田春夫	no.1	9 月 29 日 ～ 11 月 16 日	公益社団法人青年海外協 力協会中部支部	平成 27 年度 IICA 北陸課題別研修事業 観 光振興政策コース 講師派遣 (12 回)	4
才田春夫	no.2	11 月 16 日	星槎国際高校 富山学習 センター	「インターナショナルゼミ」の講師・留学生依 頼について	1
才田春夫	no.3	2 月 19 日	富山市役所 建設部 防災 対策課	富山市防災講演会:災害とボランティア協力	3
才田春夫	no.4	3 月 21 日 (予定)	高岡南高等学校	出講プログラム:タイの山地民の暮らしから国 際協力について考える	1

名前	番号	月日・期間 (回数)	依頼元	講演名等	区分
佐藤悦夫	no.1	4 月 22 日	南砺市市長政策室	エコビレッジ部活動支援事業講師派遣依頼	1
佐藤悦夫	no.2	10 月 13 日・ 14 日	公益社団法人青年海外協 力協会中部支部	平成 27 年度 IICA 北陸課題別研修事業 観 光振興政策コース 講師派遣 (2 回)	1
観光専攻	no.3	(2016 年) 2 月 27 日	富山国際大学	富山国際大学現代社会学部観光専攻公開 講座「五箇山の今後の 10 年を考える」	3
佐藤ゼミ 3 年	no.4	2 月 16 日	コンソーシアム富山	平成 27 年度「学生による地域フィールドワー ク研究助成」研究成果発表会	4

名前	番号	月日・期間 (回数)	依頼元	講演名等	区分
高橋哲郎	no.1		富山労働局	富山地方最低賃金審議会会長	2
高橋哲郎	no.2		富山大学研究推進機構 産 学連携推進センター	とやまビジネスプランコンテスト実行委員	4
高橋哲郎	no.3		(公財)環日本海経済研究 所	共同研究員	4
高橋哲郎	no.4	3 月 11 日	龍谷富山高校	「経済学・経営学について」(進路ガイダン ス)	4

名前	番号	月日・期間 (回数)	依頼元	講演名等	区分
高橋光幸	no.1	5 月	富山県図書館協会	定期総会記念講演「観光を軸とした地域づく りを考える」	1
高橋光幸	no.2	7 月・11 月	南砺市長	南砺市交流観光まちづくりプラン推進会議	2

高橋光幸	no.3	7月・2月	富山県教育委員会	高岡高等学校スーパーグローバルハイスクール運営指導委員会委員	2
高橋光幸	no.4	11月	宮崎県議会	宮崎県議会総合交通・観光・経済対策特別委員会視察への講演	4
高橋光幸	no.5	10月	公益社団法人青年海外協力協会中部支部	平成27年度JICA北陸課題別研修事業 観光振興政策コース 講師	4
高橋光幸	no.6	4月	南砺市	城端駅交通・情報拠点化基本構想策定委員会	2
高橋光幸	no.7	4回	富山県商工会連合会	小矢部市産業観光検討委員会	4
高橋光幸	no.8	2回	郡上市	郡上市観光振興ビジョン審議委員会	2
高橋光幸	no.9	7月	日中友好富山県地方議員連盟	これからの地域づくりと観光	4
高橋光幸	no.10	1月	福光商工会	観光による商店街活性化	4
高橋光幸、 上坂博亨	no.11	8月	富山県立いずみ高校	高校生環境学習会支援活動	4

名前	番号	月日・期間 (回数)	依頼元	講演名等	区分
長尾治明	no.1	4月21日	富山県消費者協会消費生活研究グループ連絡協議会	平成27年度消費生活研究グループ連絡協議会講演会講師派遣依頼	1
長尾治明	no.2	7月27日	富山県警察学校	富山の経済について	1
長尾治明	no.3	10月06日	富山県高等学校教育研究会地理部会	富山県高等学校教育研究会地理部会研究大会への講師派遣	1
長尾治明	no.4	10月06日	中部経済産業局	平成27年度中部経済産業局ふるさと名物応援事業補助金(消費者志向型地域産業資源活用新商品開発等支援事業)評価委員会の開催について	1
長尾治明	no.5	4月22日	中部経済産業局電力・ガス事業北陸支局	中部経済産業局電力・ガス事業北陸支局創業支援事業計画認定評価委員会委員長	2
長尾治明	no.6	5月12日	中部経済産業局	中部経済産業局地域産業資源活用事業評価委員会委員	2
長尾治明	no.7	6月23日	富山市長	富山市総合計画審議会委員	2
長尾治明	no.8	6月23日	富山市長	「富山市まち・ひと・しごと総合戦略会議」における委員	2
長尾治明	no.9	7月01日	富山市長	富山市公設地方卸売市場取引運営協議会	2
長尾治明	no.10	9月16日	小矢部市長	小矢部市道の駅メルヘンおやべ指定管理候補者選定委員会委員	2

長尾治明	no.11		中部経済産業局	中部経済産業局ふるさと名物応援事業補助金(消費者志向型地域産業資源活用新商品開発等支援事業)評価委員会委員の委嘱	2
------	-------	--	---------	--	---

名前	番号	月日・期間 (回数)	依頼元	講演名等	区分
村瀬直幸	no.1	2回	富山国際大学付属高校	進路ガイダンス	
村瀬直幸	no.2	2回	富山県	富山県職業能力開発審議会	
村瀬直幸	no.3	2回	金沢大学	GPテーマB委員会	
村瀬直幸	no.4	2回	富山県経営者協会	経営者協会と大学の懇談会	
村瀬直幸	no.5	1回	富山県中小企業同友会	同友会と大学の懇談会	

名前	番号	月日・期間 (回数)	依頼元	講演名等	区分
後藤 智	no.1	2014年 3月～	富山県インターンシップ推進協議会	同協議会運営委員会委員長	2
後藤 智	no.2	2015年 3月～4月	富山労働局	人材不足分野における人材確保のための雇用管理改善促進事業(啓発実践コース)に係る技術審査委員会委員長	2
後藤 智	no.3	2016年 2月～3月	富山労働局	若年者地域連携事業に関する技術審査委員会委員長	3
後藤 智	no.4	2008年 7月～	富山県自治体問題研究所	同研究所理事長	4

名前	番号	月日・期間 (回数)	依頼元	講演名等	区分
小西英行	no.1	7月30日	伏木高校サッカー部	大学での学びと部活動～実際の大学での講義「コンビニエンスストアの革新性」を題材として～	4
小西英行	no.2	3月11日	南砺市地方創生課	南砺ポイント導入に向けての検討委員会出席	3

名前	番号	月日・期間 (回数)	依頼元	講演名等	区分
斎藤敏子	no.1	6月26日	富山県観光・地域振興局観光課	講師派遣依頼	1

名前	番号	月日・期間 (回数)	依頼元	講演名等	区分
佐藤綾子	no.1	10月24日	独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構	独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構資産処分審議会委員	2

名前	番号	月日・期間 (回数)	依頼元	講演名等	区分
助重雄久	no.1	11月07日	黒部川扇状地研究所	黒部川扇状地研究所創立 40 周年記念シンポジウムパネラー	3
助重雄久	no.2	12月03日	北銀ほがらか会	「北陸銀行宇奈月支店親睦会」主催講演会 「ジオパークと観光振興」	3
助重雄久	no.3	12月07日	長崎県立大学長	長崎県立大学経済学部 FD(COC 関連)研修会「長崎県のしまのフィールドワーク」	3
助重雄久	no.4	7月06日	黒部観光ガイドの会	黒部観光ガイド養成講座「知ること・知らせることの大切さ」	3

(2)「高校出講プログラム」に基づく活動

教員による「高校出講プログラム」に基づく活動は以下のとおりである。

名前	社会貢献	月日	依頼元	講演名等
上坂博亨	高校出講プログラム	11月09日	富山県立大門高校	課題研究中間発表会指導助言者

名前	社会貢献	月日	依頼元	講演名等
大谷孝行	高校出講プログラム	9月26日	富山国際大学付属高校	「現代社会で注目の分野を学ぶ」
大谷孝行		12月10日	富山県立新湊高校	「笑いを通じて人との温かい関係を結ぶ」
大谷孝行		3月20日	富山県立高岡南高校	「コミュニケーションと笑い」

名前	社会貢献	月日	依頼元	講演名等
大西一成	高校出講プログラム	12月10日	富山県立新湊高等学校	『本や新聞はなくなるか』～高校生からみた情報社会とその問題点～

名前	社会貢献	月日	依頼元	講演名等
尾畑納子	高校出講プログラム	5月12日	富山県立氷見高校	文理探究コース「探究」にかかわる招聘講座
尾畑納子		12月03日	富山国際大学付属高校	1年生「環境デザイン専攻」にかかる紹介授業

名前	社会貢献	月日	依頼元	講演名等
佐藤悦夫	高校出講プログラム	7月25日・ 26日	富山県立泊高校	観光ビジネスコース五箇山宿泊研修おける講師派遣(2回)

名前	社会貢献	月日	依頼元	講演名等
高橋光幸	高校出講プログラム	5月	富山県立氷見高校	文理探究コース「探究」にかかわる招聘講座
高橋光幸		9月	富山県立氷見高校	「平成27年度普通科文理探究コース課題研究発表会」講師派遣
高橋光幸		12月	富山県立水橋高校	「第2学年出前講座」講師
高橋光幸		1月	富山県立上市高校	「三杉クラブ」講演会講師

名前	社会貢献	月日	依頼元	講演名等
湯麗敏	高校出講プログラム	10月26日	泊高校	観光ビジネスコース「海外研修事前学習」における講師派遣

名前	社会貢献	月日	依頼元	講演名等
長尾治明	高校出講プログラム	7月29日	富山県立氷見高校	高校出講プログラムの講師派遣

名前	社会貢献	月日	依頼元	講演名等
助重雄久	高校出講プログラム	7月23日	南砺福光高校	南砺福光高等学校出張講義「インバウンド観光を考えよう」
助重雄久		11月24日	南砺福野高校	南砺福野高校地域課題学習講演会「地域のさまざまな課題について考えよう」
助重雄久		12月03日	富山国際大学附属高校	富山国際大学附属高校高大連携授業「観光専攻で学べること、目指せること」
助重雄久		3月04日	南砺福野高校	地域課題学習全体発表会の審査・講評
助重雄久		3月14日	大門高校	デジタル地図で世界や富山を考えよう
助重雄久		3月29日	茨城県高等学校教育研究会地理部	砺波平野周辺におけるエクスカーションの現地指導

(3) 学生派遣活動

学生派遣活動(学部または大学から地域社会に学生個人または学生グループを派遣)は以下のとおりである。

指導教員同行教員	学生派遣 (学生活動)	派遣月日	派遣先	フィールドワーク題目・イベント名・活動名
上坂博亨 他	フィールドワーク	11月13日～ 14日	八尾町桐谷	環境デザイン実習
上坂博亨	イベント	6月14日	オーバードホール	富山県吹奏楽連盟吹奏楽祭
上坂博亨		1月31日	大山文化会館	吹奏楽部定期演奏会
上坂博亨		2月14日	大山文化会館	第20回大山混声合唱団演奏会第1ステージ吹奏楽出演
上坂博亨		3月13日	大山文化会館	春まちコンサート
上坂博亨		3月20日	オーバードホール	富山県吹奏楽連盟かがやきコンサート
上坂博亨	ボランティア活動	6月06日	八尾町桐谷	田植えボランティア

指導教員同行教員	学生派遣 (学生活動)	派遣月日	派遣先	フィールドワーク題目・イベント名・活動名
大谷孝行	フィールドワーク	8月10日、 19日	清流会館(富山)	イ病関係者の方へのインタビュー。「聞き書き」作品の贈呈。
大谷孝行		11月13日	富山市八尾桐谷	専攻実習。桐谷在住の方への聞き書き。
大谷孝行		12月01日	富山県イタイイタイ病資料館、北日本新聞越中座	専攻実習。「過去の公害に学ぶ」「県内企業の環境対策」。
大谷孝行	イベント	2月13日	富山県イタイイタイ病資料館	「イタイイタイ病を考える県民フォーラム」における学生発表の指導および出席
大谷孝行	ボランティア活動	8月21日～ 23日	主催 富山県バスケットボール協会	北信越国民体育大会(バスケットボール)における補助
大谷孝行		4月12日	主催 富山県バスケットボール協会	第57回富山県一般男女バスケットボール選手権大会出場
大谷孝行		4月19日	主催 富山県バスケットボール協会	第57回富山県一般男女バスケットボール選手権大会出場
大谷孝行		5月04日～ 06日	主催 北信越大学バスケットボール連盟	第49回笹本杯争奪北信越大学バスケットボール春季リーグ出場(新潟)
大谷孝行		6月08日	主催 西日本学生バスケットボール連盟	第65回西日本学生バスケットボール選手権大会出場(大阪)

大谷孝行		10月04日	主催 富山県バスケットボール協会	第69回富山県バスケットボール男女総合選手権大会出場
大谷孝行		10月11日	主催 富山県バスケットボール協会	第69回富山県バスケットボール男女総合選手権大会出場
大谷孝行		10月16日	主催 北信越大学バスケットボール連盟	第49回北信越大学バスケットボール選手権大会出場(長野)
大谷孝行		12月06日	主催 富山グラウジーズ	富山グラウジーズの前座試合「高岡第一高校対 富山国際大学」
大谷孝行		12月26日	主催 北陸ウィンターカップ実行委員会	北陸ウィンターカップバスケットボール選手権大会に出場
大谷孝行		2月14日	主催 富山県バスケットボール協会	第23回冬季一般男女選手権大会出場
大谷孝行		2月21日	主催 富山県バスケットボール協会	第23回冬季一般男女選手権大会出場
大谷孝行		2月28日	主催 富山県バスケットボール協会	第23回冬季一般男女選手権大会出場

指導教員同行教員	学生派遣(学生活動)	派遣月日	派遣先	フィールドワーク題目・イベント名・活動名
尾畑納子	フィールドワーク	8月19日 -22日	富山県知事政策局	世界遺産ユースプログラム
尾畑納子		10月09日	富山県	富山県消費者大会
尾畑納子		12月02日	富山県消費者協会	アンケート調査結果の意見交換会
尾畑納子	イベント	H28年 2月12日	富山県斜面防災対策技術協会	「土砂災害がを防ぐ防災事業」
大谷孝行・ 尾畑納子		2月13日	富山県イタイタイ病資料館	「イタイタイ病を考える県民フォーラム」
尾畑納子・ 高橋ゆかり	ボランティア活動	5月17日	富山市・オスカーホーム協働	森づくり活動(春1回)
尾畑納子・ 高橋ゆかり		9月05日	富山市・大和ハウスk協働	森林整備活動
尾畑納子・ 高橋ゆかり		10月18日	富山市・オスカーホーム協働	森づくり活動(秋2回)
尾畑納子・ 上坂博亨		10月17日 -18日	富山県環境財団	とやま環境フェア 2015

指導教員同行教員	学生派遣 (学生活動)	派遣月日	派遣先	フィールドワーク題目・イベント名・活動名
才田春夫	フィールドワーク		北日本新聞	越中チャレンジ問題作成のためのフィールド調査

指導教員同行教員	学生派遣 (学生活動)	派遣月日	派遣先	フィールドワーク題目・イベント名・活動名
高橋哲郎	フィールドワーク	12月18日	道の駅カモンパーク 新湊(国土交通省北陸整備局事業)	「道の駅」と大学との連携調査(連携プログラム企画型)
高橋哲郎	イベント	7月11日	(株)まちづくりとやま、 富山商工会議所青年部	学生まちづくりコンペティション2015提案内容発表会

指導教員同行教員	学生派遣 (学生活動)	派遣月日	派遣先	フィールドワーク題目・イベント名・活動名
小西 英行	フィールドワーク	2月12日～ 13日	南砺市利賀村国際キャンプ場	南砺ポイント導入に向けた利用意向調査

指導教員同行教員	学生派遣 (学生活動)	派遣月日	派遣先	フィールドワーク題目・イベント名・活動名
助重(現地 同行指導)		6月01日	黒部市地域観光ギャラリー(協力:黒部市 商工観光課、黒部・ 宇奈月温泉観光局)	卒業論文(半沢学人)「観光案内施設の役割と課題ー黒部市地域観光ギャラリーを例としてー」対 面式アンケート調査実施打ち合わせ、現地下見 (4年ゼミ学生1名)
助重(現地 同行指導)		6月03日	富山市街地	卒業論文(白石理奈)「富山市街地における 観 光案内サイン・地図の整備とその課題」現地観察 調査(4年ゼミ学生2名参加)
助重(現地 同行指導)		6月03日	富山市街地「富山湾 鮭」加盟飲食施設	卒業論文(善光美月)「観光振興に向けた『食』の アピールー「富山湾鮭」の活かし方とその課題 ー」寿司店ヒアリング調査(4年ゼミ学生1名)
助重(現地 同行指導)		6月27日	富山市街地(松川周 辺、総曲輪、西町)	1年助重ゼミ「市街地の変遷に関する観察調査」 および「自家用車乗車人員調査」(1年ゼミ学生 10名参加)
助重(現地 同行指導)		7月05日	富山市街地(松川、総 曲輪周辺)	都市と観光「まちなか周遊プラン作成のための野 外観察調査」(授業受講生23名参加)
助重(現地 同行指導)		7月06日	魚津市「富山湾鮭」加 盟飲食施設	卒業論文(善光美月)「観光振興に向けた『食』の アピールー「富山湾鮭」の活かし方とその課題 ー」ヒアリング調査(4年ゼミ学生1名)

助重(現地 同行指導)		7月20日	黒部市地域観光ギャ ラリー(協力:黒部市 商工観光課、黒部・ 宇奈月温泉観光局)	卒業論文(半沢学人)「観光案内施設の役割と課 題ー黒部市地域観光ギャラリーを例としてー」対 面式アンケート調査(4年ゼミ学生4名参加)
助重(現地 同行指導)		7月20日	朝日町「富山湾鮭」加 盟飲食施設	卒業論文(善光美月)「観光振興に向けた『食』の アピールー「富山湾鮭」の活かし方とその課題 ー」ヒアリング調査(4年ゼミ学生1名)
助重(現地 同行指導)		8月20日	富山空港(協力:富山 県富山空港管理事務 所)	卒業論文(東海遥果)「利用動向からみた富山空 港の存立条件ー新幹線と航空路線の両立を目 指してー」利用客への対面式アンケート調査(4 年ゼミ学生2名参加)
助重(現地 同行指導)		9月10日	立山駅(協力:立山黒 部貫光株式会社)	卒業論文(崔林)「外国人に対する観光案内の課 題と解決策ー立山黒部アルペンルートを中心と してー」外国人観光客への対面式アンケート調 査(4年ゼミ学生1名、3年ゼミ学生1名、2年生 1名参加)
助重(現地 同行指導)		9月14日 ー17日	函館市(金森赤レンガ 倉庫、元町教会群等)	3年助重ゼミ「北海道函館市における観光の現 況と課題」観光客への対面式アンケート調査(3 年ゼミ学生8名参加)
助重(現地 同行指導)		9月22日	富山駅前、富山城址 公園前(協力:富山市 都市整備部富山駅周 辺地区整備課)	卒業論文(白石理奈)「富山市街地における観 光案内サイン・地図の整備とその課題」観光客へ の対面式アンケート調査(4年ゼミ学生3名参加)
助重(現地 同行指導)		9月23日	富山空港(協力:富山 県富山空港管理事務 所)	卒業論文(東海遥果)「利用動向からみた富山空 港の存立条件ー新幹線と航空路線の両立を目 指してー」利用客への対面式アンケート調査(4 年ゼミ学生4名参加)
助重(現地 同行指導)		10月10日	南砺市桜ヶ池公園	卒業論文(大道志麻)「富山市街地における観 光案内サイン・地図の整備とその課題」観光客へ の対面式アンケート調査(4年ゼミ学生4名参加)
助重(現地 同行指導)		10月12日	黒部市地域観光ギャ ラリー(協力:黒部市 商工観光課、黒部・ 宇奈月温泉観光局)	卒業論文(半沢学人)「観光案内施設の役割と課 題ー黒部市地域観光ギャラリーを例としてー」対 面式アンケート調査(4年ゼミ学生1名、3年ゼミ 学生1名、1年生2名参加)
助重(現地 同行指導)		11月19日	富山市建設部建設政 策課	卒業論文(白石理奈)「富山市街地における観 光案内サイン・地図の整備とその課題」設置者へ のヒアリング調査(ゼミ学生1名参加)
助重(現地 同行指導)		11月22日 ー23日	金沢市(兼六園・ひが し茶屋街周辺)	観光調査・分析法「金沢来訪客からみた富山」観 光客への対面式アンケート調査(学生20名参加)

2. 課題

(1) 地域貢献活動

現在は、教員の活動実績の把握に追われ、その分析、課題および今後の推進方策の検討が行われていない。

今後は地域交流センターの年報作成と連携して情報の収集・活用を行うとともに、過去2か年分のデータを含めた3か年分のデータの分析視点の検討、および分析作業を行い、学部として地域貢献活動推進のための方策の検討が必要である。

データ再整理の枠組みを次のように想定する。

教員名	計	行政の委員会等	行政主催の講演会等	経済団体・地域団体等の委員会	経済団体・地域団体等主催の講演会等	大学主催の講演会等	その他
計							

(2) 「高校出講プログラム」に基づく活動

地域貢献活動で述べたことと同様である。

データ再整理については、次のように枠組みを想定する。

高校名	担当教員名	回数	実施時期

(3) 学生派遣活動

学生派遣については27年度分しかないため、引き続きデータの蓄積を進めるとともに、学部として学生派遣に関する課題と解決策の検討が必要である。

データ再整理については、次のように枠組みを想定する。

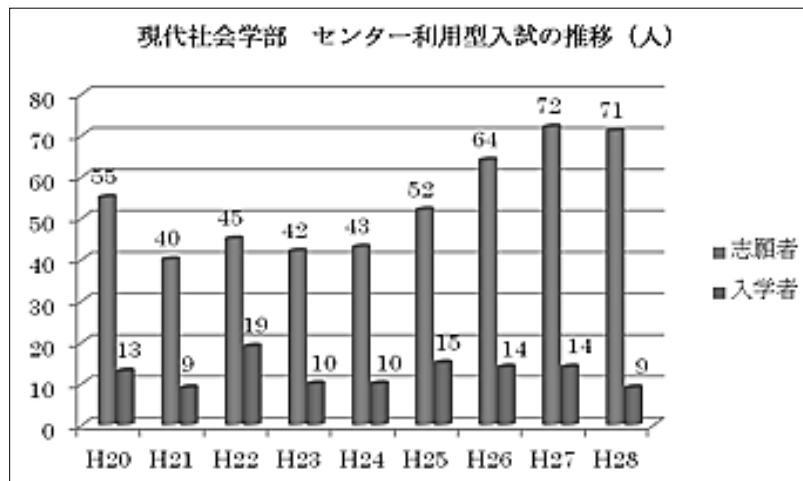
	県関係	市町村関係	企業・経済団体関係	住民関係
フィールドワーク	(件数)	(件数)	(件数)	(件数)
イベント				
ボランティア活動				
その他				

12. 入試対策

1. 実績・現状

(1) 平成 28 年度入試の結果

- 1) 推薦入試においては、定員 55 名に対し入学者は 49 名。今回導入 2 年目の推薦入試Ⅱ期は 9 名の入学者であった。また、一般・センター利用型では、合計 60 名定員に対して 36 名の入学者となり、前年比-13 名となった。一方、外国人留学生の入学者 6 名（前年比-2 名）、A0 入試入学者 3 名（前年比+2 名）と合わせ、総計 94 名の入学者（前年比-22 名）であった。
- 2) センター利用型入試(前中後)志願者は、のべ 71 名と前年比-1 名で、入学者は 9 名（前年度比-5 名）。普通科の生徒の志願者は一定数いるが、入学にまで結びついていない状況である。

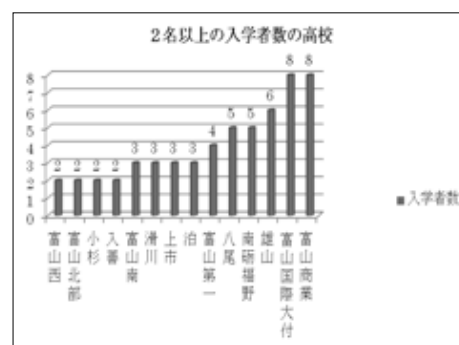
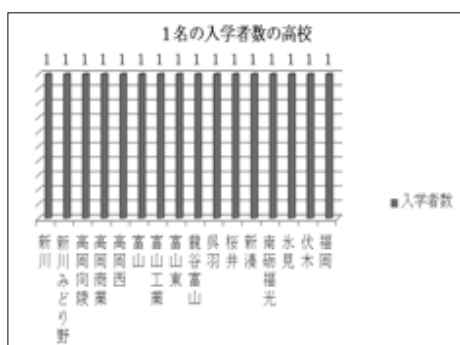


- 3) 日本人入学者数は、改組後 9 年では 116→99→112→85→94→82→96→108→88 と推移。今年度の学部全体の志願者（外国人留学生含む）は、のべ 201 名（昨年比-14 名）で受験者 198 名、合格者 189 名で、そのうち入学者が 94 名。歩留率は 49.7%であった。昨年度は、217 名の志願者で 209 名の合格者、116 名が入学し、歩留率は 55.5%であった。今年度の志願者数は、ここ数年の中で大きく落ち込んでいるわけではないが、歩留率が下がったために、結果として入学者数の落ち込みにつながった。歩留率が 5.8%下がると合格者 200 名の場合約 11 名の入学者の減少となり、今年度の歩留率が昨年度と同じ 55.5%であれば、入学者は 104 名前後になったと予測される。

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
定員数	120	→	→	→	→	→	→	→	→
志願者数	215	187	207	169	172	156	197	215	201
合格者数	187	158	183	153	162	149	183	209	189
入学者数	132	119	136	104	105	98	110	116	94

(2) 県内高校別入学者数

入学者 1 名の高校が 16 校、入学者 2 名以上の高校が 14 校（56 名）で内訳は以下の通り。



2. 課 題

- (1) 北陸新幹線が開通して北陸圏の生徒が関東方面へ出やすくなったこと、また北陸圏内で新学部の新設や学科の改変という流れの中で、本学が対外的にアピールできる売り・魅力を継続的に発信することが強く求められる。

一方、高卒求人が多く就職者内定状況も好調な中、本学には大卒に相応しい求人先が求められており、大卒と高卒の差別化を図るような魅力ある求人先を一層開拓する必要がある。特に金融・保険、国際などの分野への就職先を一層確保できるように努める必要がある。また、専攻での教育の特色を活かしたインパクトのある就職先をわかりやすく高校側に伝えられないと、高校教員にその実績が容易に評価してもらえないため、アドバルーンとなる実績が必要である。

広報としては、マスコミやホームページによるタイムリーな情報発信はもちろん不可欠であるが、それとともに入学してきた学生をしっかり育て社会に送り出すことによって口コミで広がる本学の評判という点を忘れてはならない。

- 1) 就職実績を含め充実した就職支援体制。キャリア教育の徹底と PAP 講座の実践。公務員試験合格者、優良企業内定者の増加。
 - 2) 留学支援体制の充実と留学実績。
 - 3) 大学 HP の適切な管理と更新。
 - 4) キャンパスの環境改善。自然の豊かさと人工的環境の融合したおしゃれなキャンパス空間の創造。
 - 5) 学生個々の状況に応じて、適切な目標を持たせる学生生活の指導。
 - 6) 入学した学生が不満をもたない学生生活。とりわけ授業への満足度のアップ。FD 活動の更なる推進。
- (2) 昨今はLINEなどの口コミメディアですぐに情報が広がっていくので、事件や事故などのマイナス・イメージとは無縁な、安心して進学できるキャンパス環境を保持することが重要である。そしてキャンパスが明るさと活気に満ちた空間であることが求められる。
- 1) 日頃からルールやマナーなど規範意識をもたせる学生指導。
 - 2) 学生と教職員による各種活動のタイムリーな発信。
 - 3) 部活動やサークル活動についての HP 等を利用した情報発信。
- (3) 特別奨学生入試による入学生の活用
授業料減免以外に、この入試種別で入学した場合のメリットについて、また、学部のリーダー的役割を当該学生にいかにか果たしてもらえるか検討する。
- (4) 重点校対策
本学に多くの生徒を送ってくれている高校、今後更に入学者数を増やしたい高校の信頼を勝ち得るために、当該高校出身の在学生の活躍の様子をタイムリーに発信する。
- (5) 女子の入学者増
女子生徒にとって魅力ある大学の情報発信。部活動（例. 吹奏楽部）や就職実績（例. 金融業、旅行業）。
- (6) 新幹線開通等を視野に入れた広報
長野県のほか、埼玉などの関東圏を視野に入れた広報活動を検討。また、富山県の大学に高い関心をもっている中部地区の高校への広報活動に力を入れる。
- (7) 留学生対策
優秀な留学生を確保するため秋入学を実施し、特に2+2による入学者数を増やす。
- (8) 副専攻の制度と連携した入試
平成29年度より導入される副専攻（グローバル人材育成）と関連した入試制度（例. グローバル人材入試）導入の検討。

13. ホームページ・広報活動

1. 実績・現状

ここでは、入試関連の広報を除き、教員・職員による広報活動について示す。

(1) ホームページ

本学ホームページへのアクセス数は、一日平均 13,000 件前後であるが、2014 年度から 15 年度にかけて減少している。

ホームページのニュース&イベントへの投稿件数は、現代社会学部は 2014 年度より減少している。

表 13-1 ホームページへのアクセス件数

年度	年間アクセス件数 (注)	一日平均件数	増減率
2013 年度	約 433 万件	約 11,800 件	
2014 年度	約 490 万件	約 13,400 件	約 13%増
2015 年度	約 467 万件	約 12,800 件	約 5%減

(注) 画像、PDF ファイル等を含む

表 13-2 ニュース&イベントへの投稿件数 (上段：実数、下段：増減率)

年度	大学計	現代社会学部	子ども育成学部	各センター
2013 年度				
2014 年度	285	95	88	102
2015 年度	235	79	75	81

表 13-3 ホームページの更新

年度	更新内容
2013 年度	2012 年末に大学ホームページをリニューアル 3 専攻のホームページデザインを統一化 産業界 G P のホームページを作成 各専攻の話題や注目情報・ニュースなどを追加 シラバス、教員紹介、紀要データなどを更新・追加
2014 年度	専攻別のページの更新に取り掛かった。それぞれの専攻のカリキュラム概要、就職先、先輩からのメッセージ等の内容を更新した。
2015 年度	各専攻のページ、シラバス、教員紹介、紀要データなど、経常的な更新のみ。

(2) 新聞

本学部の取り組みが新聞に掲載される件数は、2013 年度から 14 年度にかけては増加したが、15 年度は前年並みである。

表 13-4 現代社会学部に関する記事掲載件数

年度	大学・学部・OB	学生の活動	教員の活動	計	備考
2013 年度				89	13 年 6 月～14 年 3 月 17 日。すべての

					新聞が対象。
2014 年度		85	36	121	14 年 3 月 17 日～15 年 3 月 19 日。すべての新聞が対象。
2015 年度	27	35	18	80	15 年 3 月 23 日～16 年 3 月 15 日。北日本新聞が対象。すべての新聞を対象にすると 118 件。

（注）森井さんの退職に伴い、新聞のチェック・切り抜きをする職員がいなくなったため、次年度は北日本新聞に限定して調査を行う。

（３）放送（テレビ、ケーブルテレビ、ラジオ）

放送については、下記の項目について今年度から調査を行っていく。

表 13-5 放送で取り上げられた教員数

年度	テレビ	C A T V	ラジオ	計
2016 年度				

２．課題

（１）ホームページ

学部の広報活動の推進、取り組みの総括や自己点検活動の効率化のために、広報戦略と年間スケジュールづくり、実施体制の明確化、情報整理の基本的な枠組みづくりが緊急の課題である。

（２）新聞

同上

（３）放送（テレビ、ケーブルテレビ、ラジオ）

同上

14. 研究活動

1. 学会発表、論文発表および著書

1.1 学会発表

- 尾畑納子(2015)「超音波洗浄による電解水の洗浄への試み」, 日本繊維製品消費科学会年次大会, 信州大学, (2015.6.28)
- 尾畑納子, 下尾裕子(2015)「富山県における洗濯行動調査」, 日本繊維機械学会北陸支部年次大会, 富山市 CiC, (2015.12.10)
- 風間駿, 濱本卓司, 国松直, 川本聖一, 平尾善裕, 鈴木健, 水平方向内部加振による家屋の環境振動特性の把握(その2), 日本建築学会学術講演梗概集, 2015 年度大会, 347-348
- 太田賢治, 濱本卓司, 国松直, 平尾善裕, 鈴木健, 川本聖一, 水平方向内部加振による家屋の環境振動特性の把握(その3), 日本建築学会学術講演梗概集, 2015 年度大会, 349-350
- ato, A (2015) “Effective use of financial reporting: The case of a Japanese local council”, CIGAR-Comparative International Governmental Research 15th Biennial Conference, June 4-5th 2015, MALTA
- 佐藤綾子「地方議会における財務情報活用に関する先行研究と課題」国際公会計学会 第 18 回全国大会、2015 年 8 月 28 日
- 佐藤綾子「地方議会における政策議論に有用な財務情報」国際公会計学会 第 46 回中部部会、2015 年 12 月 26 日
- 佐藤勝秀, 中村健二 (2015) 日本のインバウンド政策における VFR の活用可能性の検討, 日本国際観光学会第19回全国大会, 東京(10 月 31 日)
- 高尾哲康, 要約筆記品質向上システムにおける音声認識ツール利用の検討(2015)、情報科学技術フォーラム FIT2015、7K-3、(9 月 15-17 日)
- 高尾哲康, 音声認識との自動連携による要約筆記の品質向上(2016)、情報処理学会全国大会、高尾哲康、2F-02、(3 月 10-12 日)
- 高橋ゆかり, 小林剛, 劉予宇(2015)実汚染土壌における鉛の形態と溶出特性, 第 21 回 地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会, 福岡, 6 月 19 日
- グエンティーランビン, 小林剛, 亀屋隆志, 高橋ゆかり, 劉予宇, 藤江幸一(2015)大気に排出された鉛等の沈着による土壌汚染の可能性の評価, 第 21 回 地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会, 福岡, 6 月 18 日
- PAVLIY,B.(2015) Borders of Identity and the Language Law in Ukraine, 9th International Council for Central and East European Studies (ICCEES), Makuhari (Japan), (3- 8/Aug)

1.2 論文発表

- 尾畑納子(2016)「富山県における洗濯行動調査」, 富山国際大学現代社会学部紀要第 8 巻, 29-34
- 佐藤勝秀, 中村健二 (2016) VFR の海外事例の分析と訪日政策への適用可能性の検討、日本国際観光学会論文集第 23 号, pp197-203
- 助重雄久, 石場清佳, 金子日都美, 坂口詩織, 柴田有史, 鈴木有生, 高田有紀, 平野優美, 向口和幸(2016) 北海道函館市における観光の現況と課題, 富山国際大学現代社会学部紀要, 8, 45-57
- 助重雄久, 金沢・富山観光調査グループ (2016) 金沢を訪れた観光客から見た富山県観光, 富山国際大学現代社会学部紀要, 8, 59-69

- PAVLIY,B., LEWIS,J (2015) “Borders of Identity and Actual Language Use in Ukraine: An Analysis of Geotagged Tweets” Japanese Slavic and East European Studies, Vol.36, 1-21【査読有】
- PAVLIY,B., LEWIS,J (2016) “The Performance of Twitter’s Language Detection Algorithm and Google’s Compact Language Detector on Language Detection in Ukrainian and Russian Tweets” 富山国際大学現代社会学部紀要 第8巻, 99-106
- 高尾哲康、(2016) 学生証ICカードを利用した出席管理システムの試作、富山国際大学現代社会学部紀要
- 村瀬直幸(2016) 金融政策の効果、富山国際大学現代社会学部紀要,第8巻,91-98

1.3 著書

- 尾畑納子, 五十畑弘 他(2015)「日本固有の防災遺産 立山砂防の防災システムを世界遺産に」ブックエンド, 134-145(分担)
- 佐藤綾子「地方議会における財務報告活用の課題」『公共経営の変容と会計学の機能』同文館出版(2015年6月脱稿)
- Takeshi Kobayashi, Yuyu Liu, Yukari Takahashi, Takashi Kameya, and Yuko Yamada, (2015) “The Adsorption Equilibrium of Pb and Cd on Several Soils in Various pH Solutions or in the Presence of Dissolved Humic Substances”, Heavy Metal Contamination of Soils, Soil Biology 44, 105-111
- PAVLIY,B. (in press). Language choice and political preference in Ukraine: Can language unite the nation? In T. Ottman, Z. Ritchie, H. Palmer, & D. Warchulski (Eds.), Peace as a global language: Peace and welfare in the global community. Bloomington, IN: Iuniverse.

2. 紀要執筆状況

今年度は論文9編、研究ノート1編が投稿された。昨年よりも投稿者数が減少しているが、6割強の教員が論文を投稿しており研究活動が活発に推進されていると評価できる。

<論文>

- 大西一成:地域経済における製造業の生産性と輸出に関する一考察 ～富山県における製造業を具体的事例として～
- 尾畑納子:富山県における家庭洗濯実態調査
- 佐藤悦夫、今井雪乃、佐野里穂、野村彩乃、松木峰音、宮崎春奈、森本絵里香:北陸新幹線開業後の五箇山地域における観光客の動向および大学生の視点から見た五箇山の新しい魅力に関する一考察
- 助重雄久、石場清佳、金子日都美、坂口詩織、柴田有史、鈴木有生、高田有紀、平野優美、向口和幸、北海道函館市における観光の現況と課題
- 助重雄久、金沢・富山環境調査グループ:金沢を訪れた観光客から見た富山県観光
- 高尾哲康:学生証ICカードを利用した出席管理システムの試作
- 湯麗敏:富山における文化観光に関する一考察 ～訪日中国人観光客を例にして～
- 村瀬直幸:金融政策の効果
- Bogdan Pavliy and Jonathan Lewis:The Performance of Twitter’s Language Detection Algorithm and Google’s Compact Language Detector on Language Detection in Ukrainian and Russian Tweets、

<研究ノート>

- 川本聖一:富山県の住宅供給企業の特徴

3. 競争的資金等による採択研究の概要

3.1 科学研究費助成事業

<研究代表者>

- 上坂博亨:高対塵性・低環境負荷な低回転ボルテックス水車の動作解析と設計指針の開発
- 佐藤綾子:地方議会の意思決定に有用な財務報告に関する研究
- 高橋ゆかり:子どもの室内空気汚染物質への曝露評価および健康リスク低減に向けての提案

<研究分担者>

- 佐藤悦夫:愛知県立大学
- 佐藤綾子:明治大学
- 高橋ゆかり:横浜国立大学

3.2 富山県ひとづくり財団

- 2号助成金(富山国際大学現代社会学部公開シンポジウム)

3.3 富山第一銀行奨学財団

- 高橋光幸:北陸新幹線開業に伴う富山県観光の変化に関する研究
- 上坂博亨:八尾町桐谷地区における地域資源ポテンシャルの推計とエネルギー自立の可能性調査
- 高橋哲郎:実践型人材育成教育に関する研究ー学外学修プログラムの開発ー

3.4 その他

- 小西英行:(仮称)南砺ポイントに関する調査研究

4. 評価と課題

- ・ 紀要執筆に関しては十分活発に推進されている。26年度から導入した「学内試読制度」は、26年度中は試行であったが、本年度に紀要執筆委員会によってプロセス化され本格実施している。
- ・ 科研費採択件数については、本学部の27年度新規採択は基盤研究Cにおいて3件であった。26年度がゼロ件であったことから大きな改善であると言える。
- ・ 大学全体の科研費(研究代表者)による助成件数は総合して9件で、現代社会学部が4件(内、客員教授が1件)、子ども育成学部が5件である。現在のところ科研費以外の競争的資金としては富山県ひとづくり財団、富山第一銀行奨学財団に集中しており、それ以外では南砺市からの助成「南砺ポイントに関する調査研究」に限られている。文科省をはじめとする他省庁も含め、科研費以外の競争的資金獲得も望まれる。

15. 文部科学省平成 27 年度認定事業「地(知)の拠点大学」

1. 現状・実績

(1) 「地(知)の拠点大学」認定

本学は、文部科学省の競争的補助事業「平成 27 年度地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」において、富山大学を代表申請大学とする「富山全域の連携が生み出す地方創生—未来の地域リーダーの育成—」事業に事業協働機関として参加(COC+参加校)して認定されると共に、「地(知)の拠点大学」事業にも申請を行い認定された。そして、本事業の期間は平成 27 年度から 31 年度の 5 年間事業である。(注)COC+とは、Center of Community の略称。

(2) 事業目標

「地(知)の拠点大学」の事業目標は、第一に、地方公共団体や県内企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出・開拓、第二に、地域が求める人材を養成するために必要なカリキュラムの改革の断行である。具体的には、第一は地元就職率 10%以上の増加(H26 年対比)、現状の 84.5%を、5 年後 94.5%以上にするのである。第二は、地域社会が求める人材ニーズは「課題解決型」人材であると認識して、実学・実務教育をより一層強化するよう、カリキュラム改革を断行していくことにある。

(3) 事業内容

上記の目標を実現するために、課題解決型能力テストの開発と地域志向カリキュラムを体系化した「とやま地域創生人材育成プログラム」を実施する。

①課題解決型能力テストの開発

富山地域企業等が求める「課題解決型」人材には、「問題分析力」「課題解決力」「コミュニケーション力」「協働力」「遂行力」の 5 能力特性が要求されているので、これらの能力特性を客観的に評価できるテストを開発して、学生を個別指導する際の参考資料のひとつとして活用する。

②とやま地域創生人材育成プログラム

本プログラムは「問題解決学習」「地元学学習」「情報技術向上学習」「社会人基礎力学習」の 4 部門から構成される。その中核となるのが、正課科目(必修または選択必修)として構成され、学年の進行につれて実践的課題解決へとステップアップしていく「4 段階地域課題探求プロセスによる課題解決学習」である。また、学生の自主的活動を促して課題解決力の更なる向上を目指す仕組みも採り入れる。

地元学学習は地元への就職希望者を増加し定着率の向上を図るために、地元のことを知り理解し郷土愛を醸成するカリキュラム—「とやま地域学」「経営者講座」「県内企業等講座」「富山魅力発見講座」—を設置する。

情報技術向上学習は、社会人・職業人として必須のものとして位置付け、文章作成力、発表力、情報処理力、語学力等の技能学習科目を設置する。

社会人基礎力学習は、社会人として必要とされるマナー、接客方法、会計・簿記等の基礎知識と社会的知識・教養を学ぶ科目を設置する。

(4) 事業推進体制

事業を円滑に推進するために、下記の部署を設置してそれぞれの役割と機能を果たし推進する。

①地域連携推進委員会：推進母体となり、事業全体の計画・実施に責任をもつ。

- ②地域志向カリキュラム改革事業部会(地域連携推進委員会の部会):地域志向カリキュラム改革「とやま地域創生人材育成プログラム」の具体化と実施にあたる。
- ③地元就職率向上対策部会(地域連携推進委員会の部会):雇用創出(雇用開拓等)・地元定着率の向上のための計画の具体化と実施にあたる。
- ④庶務担当者連絡会議:CO_C+事業の庶務を司る。
- ⑤地(知)の拠点事業推進室:事業の日常的業務を遂行し、また大学外との折衝の窓口となる機関。
- ⑥外部評価委員会:毎年1回開催して、自己点検評価を実施しPDCAサイクルを確立する。

2. 今後の課題

(1) 本事業は次年度から本格的に推進していくことになるが、今後、学長のリーダーシップの下で全教職員が一丸となって協働していくことができるかにかかっている。特に、①地域が求める課題解決力型人材づくりを目標としたカリキュラム改革を全学的にブラッシュアップしていくことと、②正課課程科目並びに実習等の実学・実務教育によって、課題解決型人材を地域社会の期待通りに育成することが今後の重要課題である。

(2) また一方では、自治体や企業等の地域社会の協働事業機関と連携して、本学の学生にとって魅力的な就職先を創出・開拓して、就職先の質的転換を図ることも、地元就職率10%以上増加するための喫緊の課題である。

16. 後援会・保護者対応

1. 実績と現状

(1) 後援会理事会・後援会総会

後援会総会への申込者数は年々減少傾向にある。特に、15年度は激減である。

表 16-1 理事会・総会の実施内容

年度	理事会	総会
2013 年度	平成 25 年 5 月 25 日（土） 東黒牧キャンパス大会議室	平成 25 年 6 月 22 日（土） 富山第一ホテル 申込者数 76 名
2014 年度	平成 26 年 5 月 24 日（土）10：30 東黒牧キャンパス大会議室 出席者数（理事）19 名	平成 26 年 6 月 21 日（土）14：30 オークス・カナルパーク・ホテル 申込者数 71 名
2015 年度	平成 27 年 6 月 27 日（土） オークス・カナルパーク・ホテル 出席者数（理事）20 名	同左 申込者数 42 名

(2) 保護者懇談会

保護者懇談会への申込者数は前期・後期ともに 40 名前後で推移している。

表 16-2 実施内容

年度	前期	後期
2011 年度	申込者数 31 名	申込者数 43 名
2012 年度	申込者数 32 名	申込者数 43 名
2013 年度	後援会総会時（6 月 22 日）に実施 事前にゼミ担当教員から保護者あて に学生に関するコメントを送付 申込者数 40 名	大学祭時（10 月 12 日・13 日）に実施 事前にゼミ担当教員から保護者あて に学生に関するコメントを送付 申込者数 37 名
2014 年度	後援会総会時（6 月 21 日）に実施 事前にゼミ担当教員から保護者あて に学生に関するコメントを送付 申込者数 36 名	大学祭時（10 月 25 日・26 日）に実施 事前にゼミ担当教員から保護者あて に学生に関するコメントを送付 申込者数 34 名
2015 年度	後援会総会時（6 月 27 日）に実施 事前にゼミ担当教員から保護者あて に学生に関するコメントを送付 申込者数 49 名	大学祭時（10 月 24 日・25 日）に実施 事前にゼミ担当教員から保護者あて に学生に関するコメントを送付 申込者数 39 名

(3) 同窓会

毎年、15名程度の卒業生の出席であったが、2015年度は22名に増加した。これは、卒業生の間での「声かけ」が奏功したものと考えられる。

表 16-3 実施内容

年度	内容
2013 年度	平成 25 年 8 月 10 日（土）、オックス・カナルパーク・ホテル 第 19 回総会および懇親会 出席者数 計 39 名 卒業生 15 名（人文 4、人文社会 1、地域 3、現代社会 2、子ども育成 5） 教育職員 17 名（学長、現代社会 9、子ども育成 7）、事務職員 2 名 同窓会役員 5 名
2014 年度	平成 26 年 8 月 2 日（土）、オックス・カナルパーク・ホテル 第 20 回総会および懇親会 出席者数 計 45 名 卒業生 15 名（人文 2、地域 1、現代社会 6、子ども育成 6）、 教育職員 20 名（学長、現代社会 9、子ども育成 10）、事務職員 5 名 同窓会役員 5 名
2015 年度	平成 26 年 8 月 8 日（土）、オックス・カナルパーク・ホテル 第 21 回総会および懇親会 出席者数 計 42 名 卒業生 22 名（人文 11、人文社会 1、地域 4、現代社会 5、子ども育成 1） 教育職員 14 名（学長、現代社会 7、子ども育成 5）、事務職員 1 名 同窓会役員 5 名

2. 課題

(1) 参加保護者数の増加

後援会総会や保護者懇談会に参加する保護者数を増やし、教職員と保護者との対話・連携を大切である。

(2) e ポートフォリオ学生カルテ

担当ゼミ学生に関する日頃の指導状況を e ポートフォリオ学生カルテに記入し、情報共有を図るとともに、保護者懇談会等の資料とする。

(3) 休退学指導記録

引き続き、担当ゼミ学生の休学や退学に関連した指導記録を学内共有フォルダ内に保存し、今後の指導に役立てる。